

# 真田宝物館

## 収蔵品目録

真田家旧蔵資料目録

— 茶 器 —



松代文化施設等管理事務所

# 真田宝物館収蔵品目録

真田家旧蔵資料目録 — 茶器 —

松代文化施設等管理事務所

# 目次

図版編	3
資料編	78
解題	78
図版解説	82
史料紹介	96
資料データ	108

## 凡例

- 一、本目録は、真田宝物館（長野市教育委員会 文化財課 松代文化施設等管理事務所）が所蔵する真田家伝来資料のうち茶器に分類されるものを収録したものである。
- 一、本目録の配列は、真田宝物館収蔵番号順である。
- 一、資料写真の下に写真番号、資料名、収蔵番号を記載した。写真番号は本目録固有の番号であり、収蔵番号は資料固有の番号である。
- 一、図版解説の資料名・寸法（縦・横・高 単位/cm）は収蔵台帳によったが、適宜改めた。
- 一、傷みが激しいものは寸法を取っていない。
- 一、資料名については、今後の研究によつて改められる可能性もある。
- 一、本目録の写真は、高久良一氏に撮影を委託したほか、当所所蔵の原版を使用した。
- 一、本目録の編集は当所専門員・山中さゆりがあたり、学芸員・降幡浩樹、専門員・溝邊いずみ、職員・小山万里、丸山恵美子の協力を得た。また、解説は寺田寿子氏の協力を得た。
- 一、資料編については、変体かなはひらがなに、旧字・異体字は適宜常用漢字に改めた。また、判読不能の文字、貼り紙などで見えない文字は□で表した。推測できる文字については、四角で囲った。





1 文琳の茶入 (茶 特)



2 南京赤絵茶入 (茶1-1)



3 蠟色葵紋付棗（茶1-2）



4 鶴首茶入 (茶1-3)





5 瀬戸大海茶入 (茶1-4)



6 水滴茶入 銘 更科 (茶2-1)





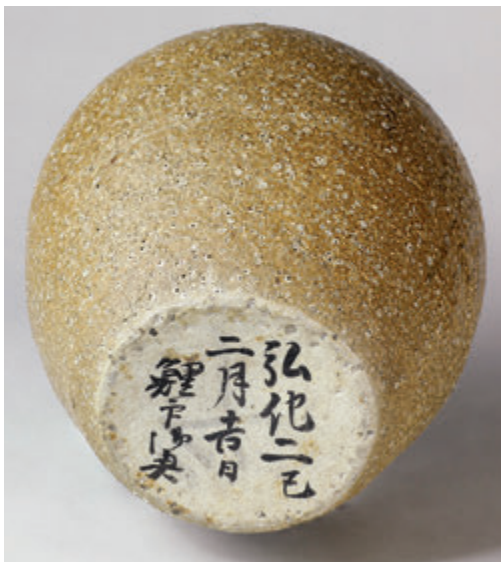
水滴茶入付属文書

安永九庚子年三月廿日信濃國愛科郡大塚村百姓六左門下人勝藏  
 煙子楮出レ黄金三壹三圓  
 黄金三三壹三正ウツレ大ウツレ石目少く遠レ

水滴茶入付属文書



7 水滴茶入仕覆 (茶2-2)



8 茶壺 (茶3-1)







9 茶壺 (茶3-2)

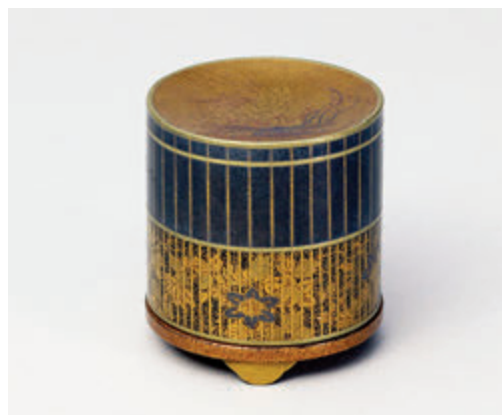


10 朱漆塗彫漆屈輪香合 (茶4-1)





11 堆朱香合 (茶4-2)



12 金蒔絵鶉籠香合 (茶4-3)



13 金蒔絵瓜形香合 (茶4-4)



14 粉彩南蛮婦人図香合 (茶4-5)





15 楽字香合（茶4-6）





16 香合 銘 鳥のあと (茶4-7)



17 梨子地桐紋蒔絵香合（茶4-8）

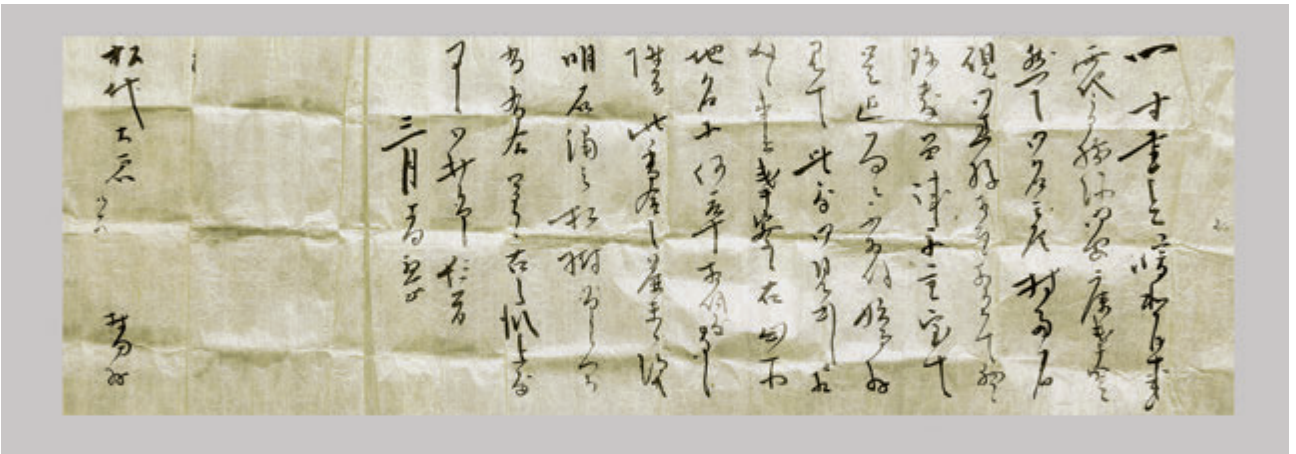


18 伊万里染付香合（茶4-9）



19 狸香合 (茶4-10)





20 香合 銘 明石 (茶4-11)





21 月日貝香合 銘 片そぎ (茶4-12)



22 真田幸貫御手焼香合 (茶4-13-1、2)

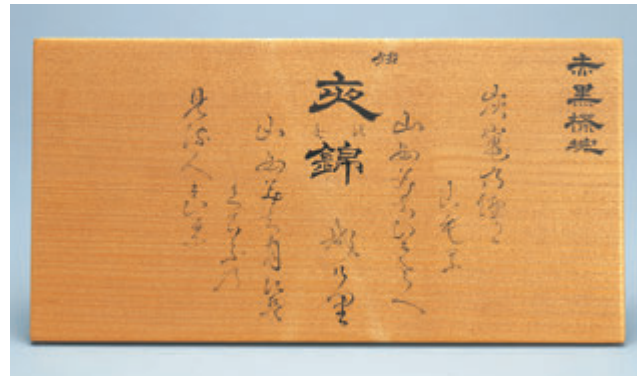


23 真田幸貫御手焼香合 (茶4-13-3)



24 赤茶碗 銘 四季 (茶5-1-1)





25 赤黒茶碗 銘 夜の錦 (茶5-1-2)



26 茶杓 銘 權之茶杓 (茶5-1-3)



茶5-1 合同箱



27 茶碗 銘 若草 (茶5-2)





28 真田幸貫御手焼茶碗（茶6-1）



29 真田幸貫御手焼茶碗 (茶6-2)



30 片口水指 黒褐色牡丹に金華鳥  
薄茶地牡丹に金華鳥白釉 (茶7-1)



31 布袋香合 (茶7-2)



32 茶碗 (茶7-3)





33 流釉桔梗形茶碗（茶8-1）



34 黒茶碗 (茶8-2)



35 金彩紋付茶碗 (茶8-3)



36 黒茶碗 (茶8-4)





37 黒楽茶碗 (茶8-5)



38 びいどろ茶碗 (茶8-6)



39 春秋草花茶碗  
(茶8-7)





40 出雲焼向付 (茶8-8)



41 鶴染付茶呑茶碗 (茶8-9)





42 黒漆塗彫漆屈輪天目台  
(茶9-1)



43 黒塗定紋付天目台 (茶9-2)



44 黒塗定紋付茶托（茶9-3）



45 茶服紗（茶10）



46 梨子地定紋付小食籠（茶11）



47 染付山水水指 (茶 12-1)



48 黒水指 (茶 12-2)





49 備前焼灰器 (茶 13-1)



50 灰器 (茶 13-2)



51 曲物建水 (茶 13-3)



52 風炉 四本爪五徳付 (茶 14-1)



53 風炉前土器 (茶 14-2)



54 炭箱 (茶 14-3)



55 炭取籠 (茶 14-4-1)



56 炭取籠 (茶 14-4-2)



57 織部焼風炉敷瓦 (茶 15-1)



58 寒水石敷瓦 (茶 15-2)





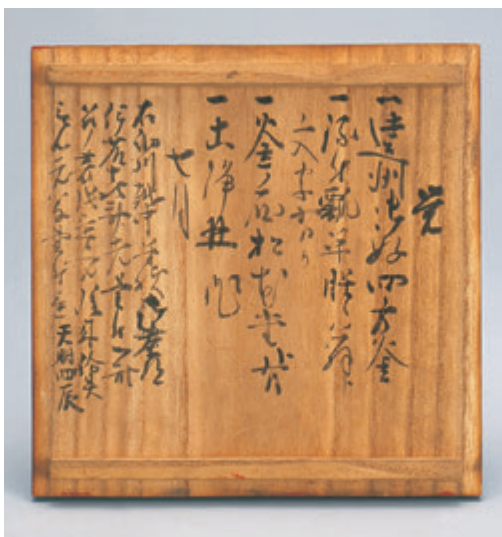
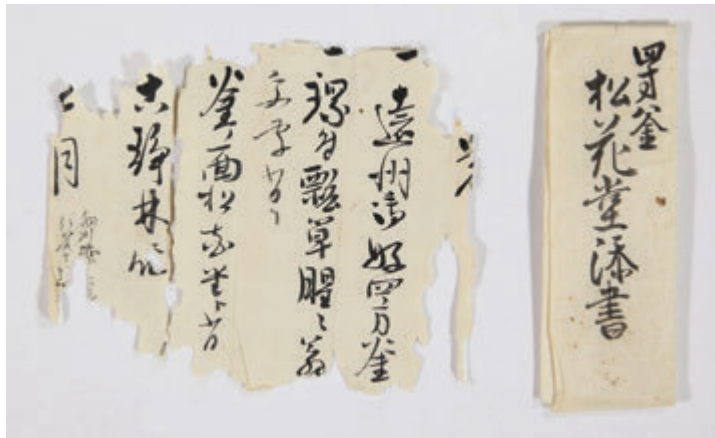
59 櫛地黒塗長板 (茶 16-1)



60 黒塗長板 (茶 16-2)



61 黒塗薄板 (茶 16-3)



62 四方釜 銘 松花堂 (茶 17-1)



63 棗釜 (茶 17-2)



64 鉄丸釜 銘 時雨 (茶 17-3)







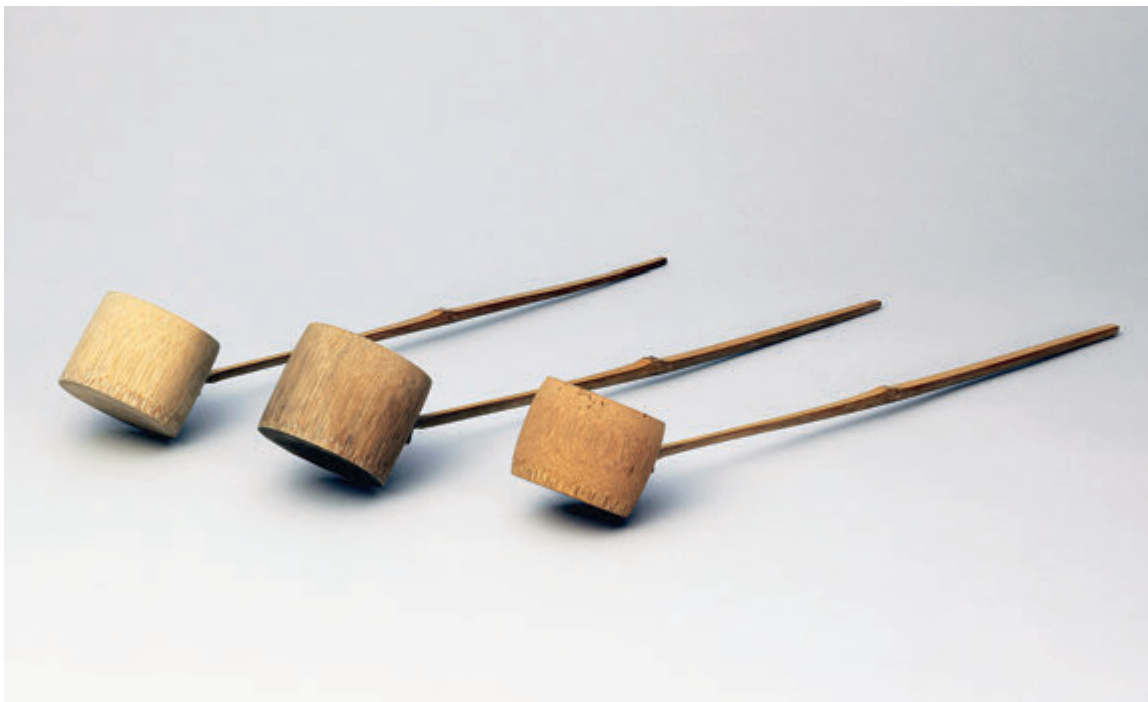
65 手取釜 銘 萬代 (茶 17-4)



66 瓢箪釜 (茶 17-5)



67 釜鑷 (茶 17-6)



68 柄杓 (茶 18-1)



69 印台蓋置 (茶 18-2)



70 掛物掛 (茶 18-3)



71 羽箒 (茶 18-4)





72 自在鉤 (茶 19-1)



73 自在鎖 (茶 19-2)



74 黒塗定紋梅鉢紋付唐草蒔絵台子棚（茶 20-1）



75 桐白木竹柱台子棚（茶 20-2）



76 喚鐘 (茶 21-1)



77 喚鐘 (茶 21-2)





78 撞木 (茶 21-3)



79 銅鑼用桴 (茶 21-4)



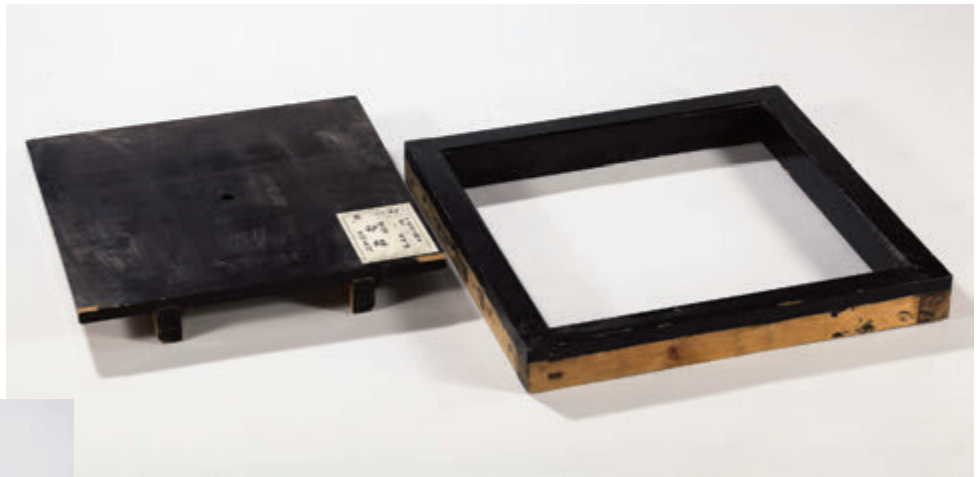
80 炉縁 (茶 22-1)



81 蓋付炉縁（茶 22-2）



82 炉縁（茶 22-3）



83 蓋付炉縁（茶 22-4）



84 炉縁（茶 22-5）



85 炉縁（茶 22-6）





86 炉縁 (茶 22-7)



87 備前焼灰焙烙 (茶 23-1)



88 底取灰土鍋 (茶 23-2)



89 風炉用灰匙・火箸（茶 23-3）



90 茶磨（茶 24-1）



91 茶磨 (茶 24-2)



92 茶磨 (茶 24-3)



93 茶磨附属品 (茶 24-4)





94 円座 (茶 25)



95 黒塗定紋付茶弁当一荷 黒羅紗白定紋覆付  
(茶 26-1)



96 黒塗定紋付茶弁当半荷 黒羅紗白定紋覆付  
(茶 26-2)



97 鈴虫籠 花立付 (茶 27)



98 唐銅耳象形大花瓶 一對 (茶 28-1)



99 唐桑六角形花台 (茶 28-2)







100 薄端花生 (茶 28-3)



101 紫檀花台 (茶 28-4)





102 唐銅耳象鼻形花生（茶 28-5）



103 唐銅鶴首花生（茶 28-6）



104 竹花生 (茶 29-1)



106 竹花生 銘 深草の竹 (茶 29-2②)



105 竹花生 銘 むしろ田 (茶 29-2①)





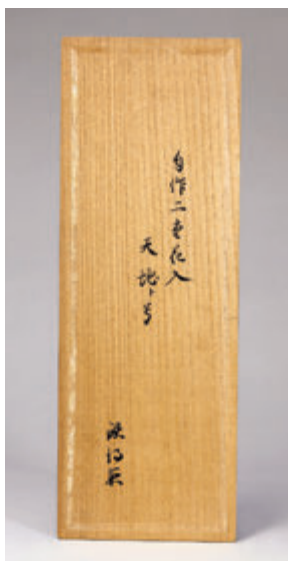
108 竹花生 銘 乱の竹 (茶 29-2④)



107 竹花生 銘 大井川船棹竹 (茶 29-2③)



109 竹花生 銘 半求庵 (茶 29-2⑤)



110 二重切花生 銘 天地 (茶 29-3)



112 手桶形竹花生 (茶 29-4-2)

111 竹花生 (茶 29-4-1)



113 獅子口花生 (茶 29-5)





114 山刀切花筒 (茶 29-6)



115 竹花生 (茶 29-7)





116 竹花生 銘 風しづか 銘 ふた霜 (茶 29-8)



117 二段切花筒 銘 千代のかげ (茶 29-9)



118 花筒 銘 千代のかざし (茶 29-10)



119 竹二重切花生 (茶 29-11)



120 竹花生 (茶 29-12)



122 木の聯(れん) 一对 (茶 30-1)



121 垂撥 (茶 29-13)



123 竹の聯 (茶 30-2)



124 瓢形掛板 (茶 31-1)





126 団扇掛 (茶 31-3)



125 扇面掛 (茶 31-2)



127 定紋付銀菓子皿 (茶 32)



128 心葉 (茶 33)



129 定紋付梨子地鶴龜松竹蒔絵茶筆筥

梨子地梅菊に竹雀蒔絵天目台及び蓋銀天目台及び茶碗付 (茶 34)



130 黄天目茶碗 (茶 35)

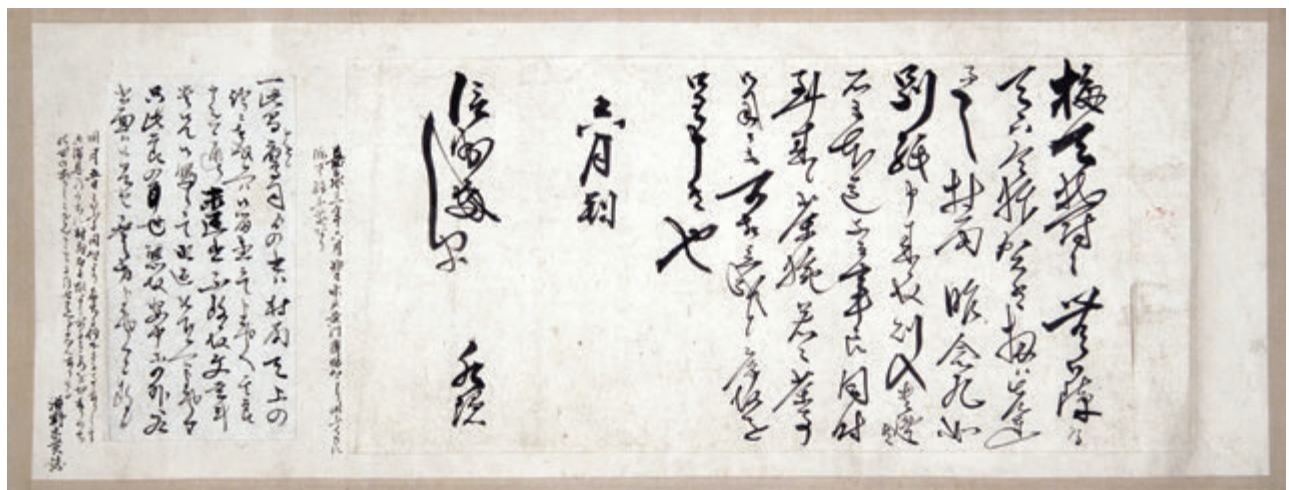
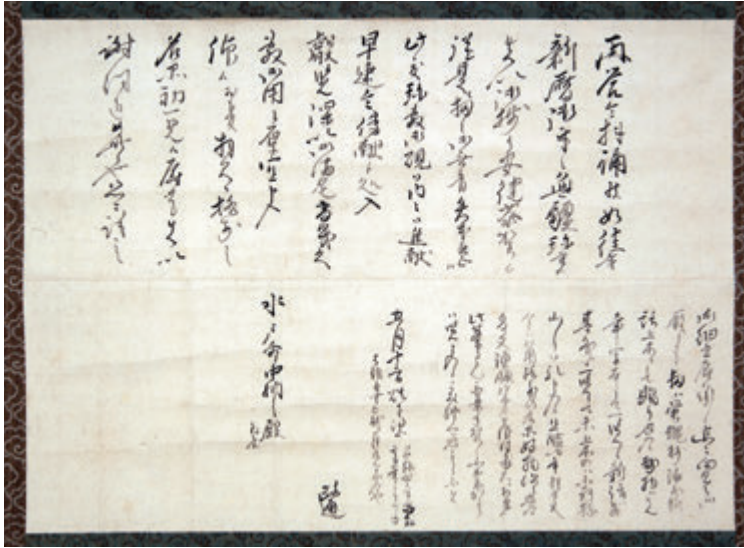
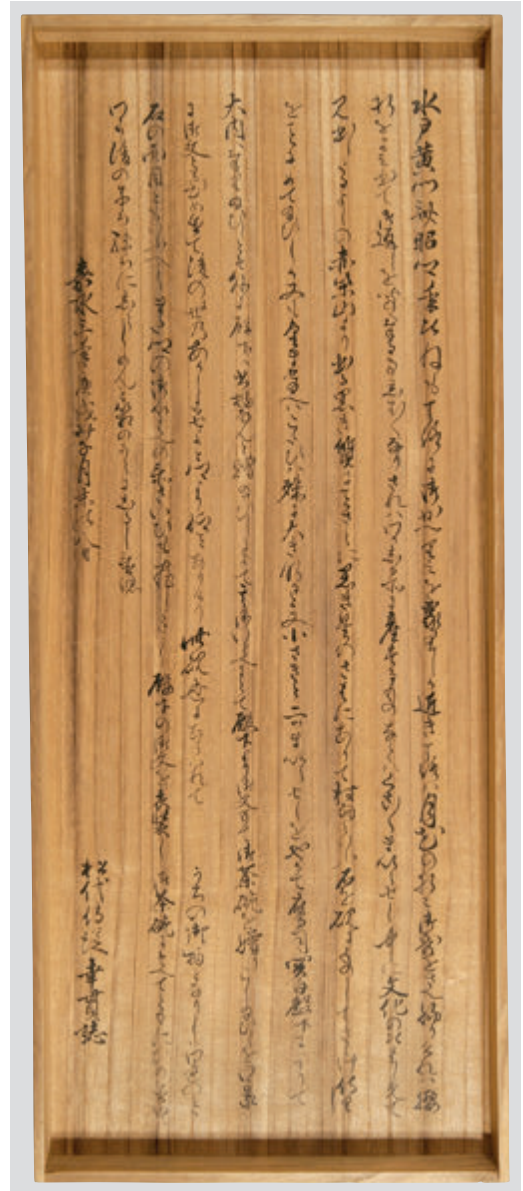


131 黒茶碗 (茶 36)



132 象嵌文字文青磁茶碗 (茶 37)





茶 37 箱書き・添文書



133 蓮華王茶壺 (茶 38-1)





134 蓮華王茶壺口覆・網袋 羽箭付 (茶 38-2)



135 卯の花茶壺 (茶 39-1)





136 卯の花茶壺口覆・網袋 (茶 39-2)



137 枝炭 (茶 40)

## 解題

## 一・本目録に収録した資料について

本目録は、真田宝物館が所蔵する真田家伝来資料のうち「茶器」に分類されているものすべてを収録したものである。本来ならば、「茶道具」とするところであろうが、真田家では従来「茶器」という分類名としているため、そのように呼ぶこととする。

「真田宝物館収蔵品目録」は、絵画や古文書を始め服飾や楽器など数冊が刊行されてきた。そのなかでも述べてきたとおり、現在の真田宝物館所蔵資料の分類は、江戸時代における真田家および松代藩の道具類の整理・分類を示すものではない。真田家伝来資料については、多数の道具帳が現存しており、これら道具帳の分析と現代に至るまでの道具類の整理・分類を明らかにするためにも、まず現在の分類方法に基づいた目録を作成・刊行することとしている。

今回取り上げた「茶器」については、平成十五年企画展示図録『真田家の茶の湯と能』においてその一部が紹介されている。しかし、細かな箱書きや貼紙などの分析および個々の資料についての解説がないものや、未紹介のものなども少なくないため、改めて目録に取り上げることとした。巻末には図版解説と添え文書などの翻刻のほか、箱書きや付箋・ラベルなどのデータを一覧表にして掲載している。全体を見通すために、解説と一覧表の双方に記述がある事柄も多くあるが、適宜ご利用いただければと思う。

史料紹介は、茶器のみの道具帳については『真田家の茶の湯と能』に紹介

されているため、今回はこれまで紹介されていない道具帳を翻刻掲載している。『真田家の茶の湯と能』図録もあわせてご覧いただきたい。

## 二・真田家伝来の茶器資料の特徴

茶器資料の目録上での配列は、茶入から始まり茶壺、香合、茶碗といったように、種類別に並べられている。特徴としては、香合が比較的多いこと、八代藩主・真田幸貫自作のものが多く、水戸藩主・徳川斉昭自作のものが複数含まれていることがあげられる。中でも、徳川斉昭自作の茶碗類は、自作の茶杓とともに漆塗りの箱にまとめて収納されているものもあり、真田家においては大切に扱われていたことが推測できる。徳川斉昭と真田幸貫は親しい関係にあり、斉昭自身から贈られたものであろう。

また、茶器のはじめにおかれている「文琳の茶入」は、もとは戦国時代から伝来する古文書とともに収納され、大切にされてきたもので、松代藩真田家初代藩主・真田信之の遺品目録にも記述がある。真田家系譜には真田幸道の三代藩主就任にあたって、この茶入が献上されたとの記述があるが、これが現存する文琳の茶入と同一のものであるかはわからない。嘉永六年（一八五三）の松代城花の丸御殿の火災の際、焼け跡から掘り出されたことが箱書きにあり、火が罹っているが、その後も大切に保管されてきたものである。

## 三・箱ラベルについて

巻末掲載の箱書・貼紙データについて見ていきたい。現用ラベルは、現在使用している資料名および収蔵番号が書かれているラベルであり、昭和四十四年（一九六九）の真田宝物館開館前後に貼られたものと思われる。ここに書かれている収納場所は、現在の真田宝物館収蔵庫が完成する前に、そ

それぞれの資料が納められていた新御殿（真田邸）の土蔵を指し、ほとんどが三番倉庫（三番土蔵）の一階に置かれた長持の中、あるいは倉庫（土蔵）壁面に取り付けられていた棚に収納されていたことがわかる。この長持および棚には、番号が付されていた。収蔵庫が完成し、資料の移転が完了したのが平成元年頃であるため、それまでは茶器の多くが三番土蔵に置かれていたのである。長持は1号から6号、棚は三棚が主となっている。

別に、収蔵番号茶37から39までは、一番倉庫（土蔵）の2階（階上）西棚下段に置かれていたことがわかる。これらは、豊臣秀吉から拝領したとされるいわゆる「ルソンの壺」などであり、貴重と考えられていたものが収納されていたとされる一番土蔵に置かれ、分類したときに茶器の最後に付け足された形であると考えられる。

旧ラベルは貼られた時期が不明だが、資料が真田家から長野市（当時は松代町）に譲られる前であったことは確かであろう。現用ラベルと旧ラベル記載の収蔵番号は異なるが、倉庫（土蔵）番号はほぼ一致している。

これまで発行の目録でも触れてきたが、真田家所蔵と印刷された楕円形あるいは四角のラベルが貼られているものがある。茶器は貼られているものが比較的少なく、貼られていてもラベルが重ね貼りされており見えないものや、中には剥がした跡があるものもある。他の資料との比較検討が今後必要であろう。

#### 四・茶器の道具帳について

(1) これまでに紹介されている茶器の道具帳

茶器の道具帳は『真田家の茶の湯と能』図録に翻刻掲載されている次の三点が知られている。

①『天保十一子年三月 御道具帳 御茶道』（国文学研究資料館所蔵真田

家文書 26Aあ3194）

②『江府御茶道預 御掛物并御道具入記』（同26Aあ3209）

③『御茶事御道具覚』（同26Aあ3259）

①は資料名にもあるとおり、天保十一年三月に作成されたもので、藩の御茶道（茶道役）が管理していた道具帳である。末尾には家老で御勝手掛であった矢沢監物の差図によって引き渡すことが記され、白井平左衛門を始めとした御納戸役四名と御茶道の丸茂賢弥・大沢久慈・三村友二の三名が名を連ねている。そして「右御勘定相違無御座候以上」とあり、勘定役見習いとみられる渡辺承之助・野中八太夫が連名し、同年六月には確かに茶道でこれらの道具を受け取ったことが同じ三名の茶道役によって確認されている。さらに「右之通立合相改相違無御座候以上」として九月に勘定吟味役の竹村金吾・徳田五百人に加え、立合として御目付・竹内増司が連名で確認している。天保十一年にこうした茶道具の作られた理由をはっきりしないが、天保十二年に真田幸貫が老中に就任したと関係があるのかもしれない。この道具帳には、途中に「四月十四日御仕舞東京御送り」と書かれた付箋があり、少なくとも明治に入ってから利用されていたとみられ、なおかつ松代にあった道具の帳面であることが窺える。

②は表題から、江戸藩邸において御茶道役預かりとなっている道具の道具帳であることがわかる。末尾に「右者江府御茶道御預之御道具此度取調仕候 処若斯御座候」とあり、明治三年正月の年記と御茶道役の月岡萬里・山田久賀の署名・捺印がある。明治三年には、道具の調査や道具帳の作成がこのほかにも行われていることから、一斉に行った道具管理の見直しの一環であったと思われる。

③は数が少なく、茶碗、茶入、茶杓といったように形態で分類されており、一回の茶会で準備使用された道具の覚書かとも思われるが、詳細は不明である。



## (2) 『御道具帳』について

今回史料紹介したのは『御道具帳』（国文学研究資料館所蔵真田家文書26 Aあ3216）で、年記や作成者などはみあたらない。①～③の道具帳とは異なり、茶器のみの道具帳ではなく、刀掛や弓などの武具類や明笛、一弦琴といった楽器類、調度類、書画類などがあまり数は多くないが含まれている。しかし真田家伝来の数多くの道具帳には、茶器の記述がないものがほとんどであるなか、この『御道具帳』には非常に多くの茶器類が記されていることもあり、紹介することとした。

『御道具帳』は、新壱番から新貳拾九番までの長持に分割収納されていたとみられる資料が長持毎に一つ書きされている。先に述べた①『天保十一子年三月 御道具帳 御茶道』には「△印之方拾九番」「○印之二拾二番」という記述があり、この拾九番と二拾二番は、『御道具帳』の新拾九番と新貳拾二番に記載されている道具と配列も含めてほぼ合致する。また、②『江府御茶道預 御掛物并御道具入記』には「新八番」「新二拾三番」「新拾七番」とあり、こちらも『御道具帳』記載の番号と道具の名称がほぼ合致している。

①には「新」の文字がないことから『御道具帳』の製作時期は①が作られた天保十一年より後のものであること、さらには「感応院様」の記述があることから、少なくとも感応院様すなわち八代藩主・真田幸貫が亡くなった嘉永五年以降であることが推測できる。また、②にあつて『御道具帳』には記述がないものがあるため、②が作られた明治三年よりも『御道具帳』のほうに後に成立したのではないかと思われるが、はっきりしない。①が松代の道具とみられ、②が江戸の道具であることからしても、明治に入ってから、江戸から松代に道具が送られ、まとめられる過程で作成されたものである可能性もある。

『御道具帳』には、数多くの付箋や貼紙が付されている。「被下二相成」

と書かれている道具もあり、下賜されたことがわかる。村名や人名は下賜された村や人物であろう。また、一つ書き道具名の下に付された付箋には「式分」「壺斤」「壺分式朱」などと書かれており、おそらくは個々の道具の値段と思われる。この金額で下げ渡したり売却したのか、あるいはこの金額相当のものであるということなのかはわからない。何も書かれていない付箋もあるが、これについても不明である。

## 五. 真田家の茶の湯

真田家の茶の湯については、これまであまり詳しい調査がなされておらず、現存する茶器からの考察のみにとどまっている。藩主の中では、真田幸貫が茶碗や花入を自作していることから、茶道に造詣が深かったことがうかがえるが、詳しいことは判明していない。一方、従来真田家の茶道役としては大沢晏全、月岡萬里などの名が知られている。今回、御側御納戸日記（国文学研究資料館所蔵）を極わずかではあるが調査したところ、茶道関係者の名が見えているので、紹介したい。

まず、天保四年（一八三三）頃出入りしているのが、溝口伯耆守御茶道・阿部休巴である。阿部休巴は、新発田藩十代藩主・溝口直諒に仕えた茶人で、半求庵と号した。御側御納戸日記天保四年六月三日の条（26 Aい273）には次のようにある。

一 被為 召罷出表於御居間茶道之儀御尋被遊候

溝口伯耆守様御茶道 阿部休巴

おそらくは、幸貫が茶道指南を受けていたと思われる、数回にわたって茶の湯の稽古のため、松代藩の江戸藩邸に出入りしている。図版番号109竹花生は、半求庵の銘と花押が書かれており、阿部休巴の手によるものと考えられる。



また、天保十三年（一八四二）には、次のような記述がみられる。

六月十八日

水野出羽守様之光鑑院様

一 青目籠御肴

右者時候為御見廻被進御茶道川上太白迄以奉札相廻之

（26 A い 296）

水野出羽守は沼津藩主・水野忠武とみられ、光鑑院は不明だが、水野家に  
関係する人物への時候の挨拶として、松代藩から茶道・川上太白宛に贈物を  
している。川上太白は新宮藩水野家の茶頭を代々務めた江戸千家四代目にあ  
たるとみられるが、真田家との関係は不明である。天保十三年は、八代藩  
主・真田幸貫が幕府老中の任にあり、こうしたこととの関係が想定されよう。  
川上太白を茶道指南として招いたことはなかったようである。

このほか、藩士では文政年間頃に御茶道助として、藤田宗堅、松林太泉の  
名が見える。今後、道具との関わりも含めて、文書の調査がなされることを  
俟ちたい。

## 六．まとめ

以上、今回取り上げた茶器と史料について、現時点で判明していることを  
述べてきた。今後はすべての道具帳の精査および分析が必要であり、箱書や  
貼紙などのデータの集積も含めて調査を進めていきたいと考えている。また、  
茶道役などの役人たちが道具の取り扱いにあたってどのような役割を果たし  
ていたのか、藩政の中での位置付けなども今後の課題である。

（文責 山中さゆり）

# 図版解説

## 1 文琳の茶入

真田家伝来品の内、吉光の短刀とともに重宝とされ、吉光の短刀の箱（吉光の御腰物箱）に、戦国武将らの書状類とともに収められて伝来したという。箱書から、嘉永六年の松代城花の丸御殿火災後に、土中から掘り出されたことがわかる。

高六・七 口径一・八 底径三・四 胴径六・八  
（箱書）文琳御茶入

（箱貼紙）吉第二二五号 一番倉庫階下 吉二号長棹  
明き箱 是れ八本茶入を吉光御短刀箱に納む

（箱蓋裏書）文琳御茶入 蓋象牙 袋鳥の丸模様 服  
紗包 唐草 紫服紗包 挽家黒ぬり ため塗箱入

嘉永六癸丑年五月朔日 御殿御焼失翌二日土中より  
掘出 其御御蓋其外焼失

（収蔵番号）茶特

## 2 南京赤絵茶入

高九・六 口径三・〇 底径四・六 胴径六・九

（箱書）南京赤絵

（収蔵番号）茶一〇一

## 3 蠟色葵紋付棗

松代藩真田家八代藩主・真田幸貫の箱書がある。幸貫は、松平定信の次男にあたる。

高六・七 口径六・一 底径三・九

（箱書）葵御紋 御棗

（箱蓋裏書）ゆへありてこの 庭のものとはなりけり  
りおろそかに 用べからず 一誠翁誌  
（収蔵番号）茶一〇二

## 4 鶴首茶入

高八・八 口径二・五 底径四・三 胴径七・二

（箱書）鶴くび 茶入 仁阿弥（花押）

（収蔵番号）茶一〇三

## 5 瀬戸大海茶入

高五・〇 口径三・五 底径三・四 胴径八・〇

（箱書）椿春慶

（箱横書）春慶大海

（収蔵番号）茶一〇四

## 6 水滴茶入 銘 更科

添え文書には、安永九年（一七八〇）三月二十日、信濃国更科郡大塚村の農民が畑から黄金とともに掘り出し、藩主に献上したものとある。この添え文書には、箱書が東海寺祥瑞和尚の筆であるとされているが、現在の箱書は田安家・徳川斉匡のものである。

高六・三 口径四・〇 底径四・五 胴径八・五

（外箱箱書）水滴御茶入 更科銘御箱書三玄翁 田安

一位斉匡卿御直筆

（内箱箱書）更科 三玄翁（花押）

（収蔵番号）茶二〇一

## 7 水滴茶入仕覆

（箱書）掘出シ 一水滴の袋斗入

長紐 一茶入袋壺ツ入  
長紐 一茶入袋壺ツ入  
（収蔵番号）茶二〇二

## 8 茶壺

壺底の墨書には鯉印御奥とある。鯉印は、九代藩主・真田幸教の義母・貞松院の持ち物であることを示しており貞松院の奥向で使用されたとみられる。

高三四・〇 口径一二・五 底径一五・〇  
胴径二九・五

（底墨書）弘化二巳二月吉日 鯉印御奥

（収蔵番号）茶三〇一

## 9 茶壺

高一六・五 口径四・五 底径六・〇  
胴径一二・八

（箱書）茶つぼ

（収蔵番号）茶三〇二

## 10 朱漆塗彫漆屈輪香合

松代藩真田家初代・真田信之の所用と伝わる。箱貼紙から、真田信之の隠居所で、のち菩提寺となった松代柴・大鋒寺に伝えられたものとみられる。

高三・二 径九・五 十六世紀（明時代）

（箱貼紙）御手許 俱利御香合 大鋒寺ニ在し重代の御物也

（収蔵番号）茶四〇一

### 11 堆朱香合

高一・八 径七・〇

(箱書) 堆朱御香合 鳥さし

(箱横書) ほてい

(箱蓋裏書) 七十四

(収蔵番号) 茶四―二

### 12 金時絵鶉籠香合

高五・二 径四・九

(箱書) 鶉籠香合

(収蔵番号) 茶四―三

### 13 金時絵瓜形香合

高四・〇 長五・八

(箱書) 瓜の香合

(収蔵番号) 茶四―四

### 14 粉彩南蛮婦人図香合

高三・二 径五・七 十九世紀(清時代)

(収蔵番号) 茶四―五

### 15 楽字香合

八代藩主・真田幸貫の実父・松平定信のお好みとされる。「楽」の字は、定信の号・楽翁からくるもので、三重県・桑名に伝わる松平定信の遺品の中にも、同様

のものがある。  
高三・〇 長六・五 幅五・七

(箱書) 楽字 香合

(箱蓋裏書) 楽翁君好ミによって 焼る所の 香合也

(収蔵番号) 茶四―六

### 16 香合 銘 鳥のあと

添文書から、松平定信から贈られた京都相国寺塔頭・林光院の梅の木片から、真田幸貫が作ったものであることがわかる。  
高二・七 幅四・七 長四・五 天保四年

(外箱書) 鳥のあと 御香合

(内箱表書) 鳥のあと

(内箱裏貼紙) 枯し木も名のミ くちせぬ梅元にむかし恋しき鳥の 跡かな

(添文書) 香合之記

此たきもの入ハ実父定信朝臣乃君様より乃給ふ処洛陽相国寺塔中林光院の鶯宿梅の古木なり、十年の昔我にゆづり給ふを、側なる厨子に秘置はべるに、今年物とふてんとてミ出けるに上のつゝめる紙に自ら書の七給ふ故くきもはやしミの住家となりぬ、また□きにあらぬ御かたミなれハ残れる文字を添写し留つゝ、永く子孫に傳んとそのよしこゝに書つけはへりぬ後世おりふし乃すさみ、茶立るおりの愛弄ともなくて、我こころを千代に傳へハうれしかるべし、此名ハ遺墨におもひかよひまた鶯の縁にもとつきつゝ、鳥乃あと、ハ号けはべりぬ  
天保四年きさらき十日あまりやつといふに信濃なる松代の城内一誠齋に幸貫誌之(花押)  
(収蔵番号) 茶四―七

### 17 梨子地桐紋蒔絵香合

高三・〇 縦六・五 横六・五

(箱書) 桐紋梨地

(収蔵番号) 茶四―八

### 18 伊万里染付香合

高二・七 径六・六

(収蔵番号) 茶四―九

### 19 狸香合

箱書から土佐・尾戸焼とわかる狸の香合。  
高五・五 胴径五・五 底径四・七

(箱表書) 香盒 腹鼓

(箱蓋裏書) 腹鼓香盒 土州尾戸焼也 寛政十年戊午

余月 棠陰亭(花押)

(箱横付箋) 御筆筒 壺

(収蔵番号) 茶四―一〇

### 20 香合 銘 明石

高一・九 径五・九

(箱書) 明石 銘

(香合底) 明石浦

(添文書)

一寸書申上候□□□□ 露か御揃弥御安康奉賀 然者御名産村雨石 硯御恵投忝存候□□ 珍敷品誠に重宝哉 是迄一向二不為伺始而拜 見哉此度御見出し二相 成候事与奉察候右出所 地名等何卒相伺度御座候 附而此香合者鹿末候得共 明石浦之松樹御座候間 右有合呈候古之故申上度 □□□□ 御座候頓首

三月上旬急書



松代大君 村田拝

几下

(収蔵番号) 茶四一〇一

## 21 月日貝香合 銘 片そぎ

貝を金泥で塗り、香合に見立てたもの。月日貝は、二枚貝で、上下の殻の色が月と太陽との対称に似ていることからこの名がある。銘「片そぎ」は、二十一代集のうち風雅集にある「片そぎの千木は内外にかわれども ちかひはおなじ 伊勢の神垣」から来るものである。箱書から、銘は伊勢神宮神職・度会朝榮によるもので、天明四年(一七八四)に伊勢御師・廣田筑後正貞が献上したものとわかる。廣田筑後は松代藩初代藩主・真田信之の頃から真田家に仕えた伊勢御師で、藩内各所にお旅屋を設け、二百石を与えられて松代城下に屋敷を構えて常に留任していたという。

縦一二・六 横一三・五

(外箱書) 月日貝 香合 銘片そぎ 御数寄屋方

(外箱貼紙) 一番 御茶道

(外箱蓋裏書) 天明四年甲辰正月 廣田筑後献上

右香合 塗師 京都 宗哲

上箱 指物師 京都 利斎

(外箱底書) 天明四甲辰 七月御預

(内箱蓋裏書) 伊勢の海より取得師月日貝を 香合として片そぎと銘するに その歌ぬし朝棟神主の裔朝榮神主の筆をこひて則 此香合を献るとて これをくも めてたきものと君か見ば 月日まぢえし かひも有らん 正四位上廣田正貞(花押)

(収蔵番号) 茶四一〇二

## 22 真田幸貫御手焼香合

吉向御手伝と伝わる、真田幸貫の御手焼きの香合。兔、梅花形は幸貫の号「誠齋」の銘がある。  
(収蔵番号) 茶四一〇三、茶四一〇四、茶四一〇五

## 23 真田幸貫御手焼香合

(箱書) 御手焼 御香合類  
(箱蓋裏書) 進上 水餅 御土産分三御下相成  
岩茸 壹折  
(収蔵番号) 茶四一〇六、茶四一〇七

## 24 赤茶碗 銘 四季

水戸藩江戸藩邸の御庭焼・後楽園焼と伝わる茶碗。水戸藩主・徳川斉昭の御手焼きである。斉昭は八代藩主・真田幸貫と親交があったことから、幸貫に贈られたものとみられる。  
高八・〇 口径一六・三 高台径五・〇

(合同箱箱書) 水戸景山公御作 四箱 御茶碗 御茶酌

(内箱書) 赤茶碗 銘 四季

(内箱蓋裏書) 斉昭作(花押)

(茶碗内側) 春湖似鏡

(茶碗外側) 夏草如茵 秋葉風錦 冬雪堆琅

(腰部窠彫) 以□岡之土作(花押)

(収蔵番号) 茶五一〇一

## 25 赤黒茶碗 銘 夜の錦

水戸藩・徳川斉昭の手によるもの。

赤 高八・〇 口径一二・五 高台径四・七

黒 高七・六 口径一二・〇 高台径四・五

(箱書) 赤黒茶碗 炭竈の煙にこもる 山もみじひるさへ 銘夜の錦なりけり

見る人はひるにくらふの 山もみじ月には夜も錦なりけり  
(箱蓋裏書) 斉昭作并賛(花押)

(収蔵番号) 茶五一〇二

## 26 茶杓 銘 權之茶杓

赤茶碗銘四季、赤黒茶碗銘夜の錦と合同の箱に収納され伝来した。徳川斉昭作。共筒の墨書から、嘉永三年(一八五〇)に作成されたものとわかる。  
長一六・〇

(共筒墨書) 茶箱之用 軒愚考 權茶しゃく 嘉永庚戌冬燈下試作 識 斉昭(花押)

(収蔵番号) 茶五一〇三

## 27 茶碗 銘 若草

内箱蓋裏書から、徳川斉昭が作った茶碗が真田幸貫に贈られ、幸貫の求めに応じて箱書と銘を書き、和歌を戸田忠敏に書かせたことがわかる。戸田忠敏は、水戸藩士で斉昭の側近として知られる。  
高七・〇 口径一一・〇 高台径四・四

(外箱書) 若草

(内箱書) 若草

(内箱蓋裏書) 我黄門源君 燕居之暇戲製一茶甌贈松代侯々盛以錦囊藏 諸桐匣乞所以名焉 君為親書 匣曰若草 係以和歌一首令忠敏描 金表題并写其由云 天保己亥季秋水戸戸田忠敏識

(中箱書) 若草

(中箱蓋裏書) 朝露もおき所なき若草のはづかに萌ゆる色は見えつゝ、拙作黒茶碗并銘 斉昭(花押)  
(収蔵番号) 茶五―二

### 28 真田幸貫御手焼茶碗

黒 高五・七 口径一五・五  
白小 高四・一 口径九・八  
片口 高八・〇 口径一〇・〇  
深茶碗 高九・一 口径一〇・五  
(収蔵番号) 茶六―一

### 29 真田幸貫御手焼茶碗

(箱書) 御手焼御茶碗類  
(箱貼紙) 幸貫公 御手焼 茶碗  
(収蔵番号) 茶六―二

### 30 片口水指 黒褐色牡丹に金華鳥

薄茶地牡丹に金華鳥白釉  
吉向による松代城花の丸御殿御庭焼とされるが、詳細は不明。

黒 高一〇・五 口径一七・五 底径七・七  
白 高一・〇 口径一七・五 底径八・五  
(合同箱箱書) 十五  
(収蔵番号) 茶七―一

### 31 布袋香合

吉向御手伝の花の丸御庭焼とされるが、詳細は不明。  
高二・〇 長四・五 幅三・一  
(収蔵番号) 茶七―二

### 32 茶碗

高台内に「松代製」とあるものや、側面に「花賞半開」とあるものなどがまとめられている。  
(収蔵番号) 茶七―三

### 33 流釉桔梗形茶碗

茶碗として伝わる松代焼。口縁部が花形に仕上げられていることから、向付や小鉢として用いられていたものと考えられる。松代焼は実用品として、厚めに作られているものが多い中、本作品は薄手に成形され、釉薬も薄目で品良く仕上げられている。箱は当初からものではない。

高六・三 口径一〇・五 高台径五・八  
(箱書) 水戸様御庭焼 黒茶碗  
(箱蓋裏書) 嘉永三庚戌年 五月御到来  
(収蔵番号) 茶八―一

### 34 黒茶碗

箱書から、作は古河藩主・土井利位、歌は真田幸貫であることがわかる。また、吹上御庭すなわち江戸城内吹上御殿の土で作ったことが書かれている。腰部に、楽十代旦入と考えられる楽印がある。土井利位と真田幸貫は、天保年間の同時期に老中を務めており、交流が深かったことを物語る作品といえる。

高七・一 口径一一・五 高台径四・〇  
(箱表書) 黒 茶碗  
(箱表貼紙) 御手許  
(箱蓋裏書) 以吹上 御庭土造焉(花押)  
(箱蓋裏貼紙) 土井大炊頭様 御手焼

(茶碗外側) いや高き 君のめくみに くらふれハつきくもあるか ふしの夕栄 幸貫  
(収蔵番号) 茶八―二

### 35 金彩紋付茶碗

家紋入り茶碗で、六連銭紋のもののみ腰部に寶山印がおさされている。  
竹に雀大 高六・八 口径一一・〇 高台径三・四  
中 高六・〇 口径七・〇 高台径三・〇  
小 高五・〇 口径九・五 高台径二・八  
六連銭紋 高六・五 口径一一・〇 高台径四・一  
(箱書) 信濃守様前 金御紋付  
御薄茶茶碗 御濃茶茶碗 御煎茶茶碗

(収蔵番号) 茶八―三

### 36 黒茶碗

水戸藩五代藩主・徳川治保(文公)の作とされる。  
高六・八 口径一一・五 高台径五・一  
(箱表書) 御茶碗  
(箱蓋裏書) 文公様御作 黒御茶碗  
(収蔵番号) 茶八―四

### 37 黒楽茶碗

高八・四 口径一〇・八 高台径四・六  
(箱書) 鉢開写 黒茶碗 楽吉左衛門印  
(収蔵番号) 茶八―五

38 びいどろ茶碗

高六・三 口径九・五  
(箱書) 雁金木スカシ蓋 合ト ひいどろ  
(収蔵番号) 茶八一六

(三五)と共に用いられたとされている。

高六・五 径一六・五

(箱書) 唐物久理天目台  
(収蔵番号) 茶九一

(箱蓋表貼紙) 瀬戸 御水指 但シ御蓋入  
(収蔵番号) 茶二一

39 春秋草花茶碗

出雲焼の一種である布志名焼の茶碗。春・秋の草花  
が描かれている。

高六・〇 口径一三・二 高台径四・七

(箱書) 上 御茶碗 新出雲焼 春秋草花  
(収蔵番号) 茶八一七

43 黒塗定紋付天目台

高一二・五 径一六・六

(43・44合同箱書) 御紋付御茶臺

(43・44合同箱貼紙) 南四

(収蔵番号) 茶九一二

箱書に「御自作」とあり、八代藩主・真田幸貫の  
作品と伝わっている。

48 黒水指

高二四・〇 径一九・〇

(箱書) 御自作 黒焼御水指

(箱貼紙) 茶一番

(収蔵番号) 茶二二

40 出雲焼向付

楓葉二枚を重ねて敷いた構図をとる出雲焼の向付。

高三・五 縦一二・八 横一五・〇

(箱蓋表書) 雲州焼 向付

(箱横書) 雲州焼 向付 五人前

(収蔵番号) 茶八一八

44 黒塗定紋付茶托

高三・五 径一四・六

(収蔵番号) 茶九一三

49 備前焼灰器

箱蓋裏に鯉と刻まれていることから、九代藩主・真  
田幸教の義母である貞松院の持ち物であったと思われ  
る。

高八・三 径十五・〇

(図版番号49～51合同箱蓋裏刻印) 鯉

(図版番号49～51合同箱底裏) 南部坂 鯉印

(収蔵番号) 茶一三一

41 鶴染付茶呑茶碗

高四・六 口径九・七 高台径三・二

(箱書) □□ 拾

不足

(箱貼紙) 鶴御茶のミ茶碗

(収蔵番号) 茶八一九

46 梨子地定紋付小食籠

梨子地に六連銭の金蒔絵が施された、小形の食籠。

内部は朱塗りされている。

高九・五 径一三・六

(箱横貼紙) 御紋付梨子食籠

(収蔵番号) 茶一一

50 灰器

高五・五 口径一七・〇

(底裏貼紙) 茶二番

(収蔵番号) 茶一三一二

42 黒漆塗彫漆屈輪天目台

初代藩主・真田信之所用と伝わる天目台。明時代  
(十六世紀)の作とみられ、黄天目茶碗(収蔵番号茶

47 染付山水水指

高一四・六 径一四・五

51 曲物建水

高七・四 口径一六・三

(収蔵番号) 茶一三一一

52 風炉 四本爪五徳付

高二・五 口径三〇・五  
(収蔵番号) 茶一四一

53 風炉前土器

皿 高二・〇 口径一〇・八  
半円形 長一一・〇 幅五・八  
(箱書) 御風爐前土器  
(包紙) 宮内様より被進候  
(収蔵番号) 茶一四一二

54 炭箱

縦三〇・〇 横四五・二 高三一・五  
(収蔵番号) 茶一四一三

55 炭取籠

縦一九・六 横二三・〇 高九・五  
(箱書) 棕欄細工 籠炭取  
(収蔵番号) 茶一四一四一

56 炭取籠

高一〇・〇 口径二二・五  
(収蔵番号) 茶一四一四二

57 織部焼風炉敷瓦

縦二九・五 横二九・〇 厚三・二  
(貼紙) 織部敷瓦式 風爐敷板  
(収蔵番号) 茶一五一

58 寒水石敷瓦

縦二五・五 横二六・〇 厚一・七  
(箱書) 水府産寒水石 小板  
(収蔵番号) 茶一五一二

59 櫛地黒塗長板

縦三七・六 横八六・六 厚一・八  
(収蔵番号) 茶一六一

60 黒塗長板

縦三五・二 横八五・〇 厚一・七  
(収蔵番号) 茶一六一二

61 黒塗薄板

縦二七・六 横三九・六  
(収蔵番号) 茶一六一三

62 四方釜 銘 松花堂

添書が付属しているが、破損が激しく、内容は蓋裏に書き写されている。蓋裏書にある「伊藤喜斎」は、遠州流伊藤派の開祖で、宝永五年(一七〇八)から熊本藩細川家の茶道頭を務めた。

高二・五 口径一〇・四  
(正面) 松花堂  
(耳側面) □ 翁

(外箱書) 遠州好 四方釜  
(内箱蓋裏書) 覚 一 遠州御好四方釜 一 鑲付瓢箪腥  
翁卜文字有り 一 釜ノ面松花堂卜有 一 古静木作

七月 右細川越中守様御茶道 伊藤喜斎老書付候此

63 棗釜

節ノ裏紙置候後年紛失 無之元写書付置天明四辰  
(収蔵番号) 茶一七一

肩に剣形の連続模様が刻まれている。箱書の「釜屋庄兵衛」は、釜師・下間庄兵衛かと思われるが、詳細は不明。

高二・〇 口径一〇・五  
(箱書) 利休劔釜 釜屋庄兵衛  
(収蔵番号) 茶一七一二

64 鉄丸釜 銘 時雨

高二・〇 口径一〇・六  
(箱書) 御釜 銘時雨  
(箱底) 丸印  
(収蔵番号) 茶一七一三

65 手取釜 銘 萬代

八代藩主・真田幸貫の歌が刻まれている。  
高三〇・〇 口径一四・〇  
(側面) 萬代 一杯の湯を汲 みてハ一杯となりて  
この水を入へし 一誠斎書  
(収蔵番号) 茶一七一四

66 瓢箪釜

高三三・〇 口径九・三  
(箱蓋表書) 瓢箪釜 古山城作  
(箱横書) 瓢箪釜  
(収蔵番号) 茶一七一五



67 釜鏝

径七・五

(箱書) 前土器

(収蔵番号) 茶一七一六

にあった茶室「知身貴亭」について書かれており、その中にあった自在鍵として記述がある。文政年中に感応公すなわち八代藩主・真田幸貫のお好みで作られたものであるという。

長一七八・〇

68 柄杓

長四二・〇

(箱書) 上 御柄杓 御茶釜 竹村六之助

(収蔵番号) 茶一八一

(墨書) あかりても 下りし家も程遠く のりに任せ

ハ 自在なるべし 一誠斎

(収蔵番号) 茶一九一

73 自在鎖

長二〇三・〇

(箱蓋表書) 七寶 自在鎖

(箱蓋裏書) 安永七戌仲冬吉辰

(収蔵番号) 茶一九一

(箱書) 唐かねくわんしよう御つりかく

(箱貼紙) 真晴院様

(収蔵番号) 茶二一一

77 喚鐘

付属の服紗に米印とあることから、十一代当主・真田幸正の夫人・澄子所用と考えられる。

高一八・〇 径一三・〇

(箱書) くわんしゃう

(箱横書) 「喚鐘」「くわん志やう」

(箱底書) くわん志やう 十二 五

(付属服紗) 米印

(収蔵番号) 茶二一一

78 撞木

茶 長四八・〇 白木 長四八・二

小 長三二・三

(収蔵番号) 茶二一一三

70 掛物掛

組み立て式で、真中で二分割できようになっている。

長四四・八

(箱蓋表書) 御懸物繪竿 御茶道方

(箱裏書) 二

(収蔵番号) 茶一八一三

74 黒塗定紋梅鉢紋付唐草蒔絵台子棚

高七〇・〇 縦四一・三 横八九・〇

(収蔵番号) 茶二〇一一

75 桐白木竹柱台子棚

高六〇・一 縦三八・二 横七五・二

(箱焼印) (人七)

(収蔵番号) 茶二〇一一

79 銅鑼用桴

長三二・〇

(収蔵番号) 茶二一一四

80 炉縁

高六・五 径四二・四

(箱書) 黒塗炉縁 御茶道御預り

(炉縁側面墨書) 入

(収蔵番号) 茶二一一

71 羽箒

長四四・〇

(包紙) 上々 鷲三ツ羽 左

(収蔵番号) 茶一八一四

76 喚鐘 (全二点)

箱貼紙から、九代藩主・真田幸教の夫人・真晴院の

所用と考えられる。

大 高二〇・〇 径一二・六

小 高一四・〇 径一〇・〇

72 自在鉤

『海津旧蹟録』卷一御所蔵の項に、松代城花の丸内

81 蓋付炉縁

八代藩主・真田幸貫所用と伝わる。

高六・〇 径四二・〇

(箱蓋表書) 囲炉裡縁

(箱蓋裏書) 御数寄方

(炉縁底面墨書) 御茶道

(収蔵番号) 茶二二・二

82 炉縁

高七・〇 径四二・四

(箱書) 乾印入 黒塗御爐縁

(炉縁貼紙) 乾印御長持入 御居間御常用

(収蔵番号) 茶二二・三

83 蓋付炉縁

高五・八 径五一・六

(炉縁側面墨書) 御居間御ろうふち

(収蔵番号) 茶二二・四

84 炉縁

高七・七 径五一・六

(収蔵番号) 茶二二・五

85 炉縁

高七・〇 径三九・六

(収蔵番号) 茶二二・六

86 炉縁

高五・八 径五一・六

(炉縁横墨書) 御上屋敷御化粧之間爐縁

(収蔵番号) 茶二二・七

87 備前焼灰焙烙

高四・五 口径一七・二

(箱表書) 備前焼 御灰焙烙

(箱蓋裏貼紙) 備前焼 火襷

(収蔵番号) 茶二三・一

88 底取灰土鍋

高一二・六 口径三〇・四

(箱書) 底取灰土鍋 一組

(収蔵番号) 茶二三・二

89 風炉用灰匙・火箸

大唐銅灰匙 長三六・四

銅灰匙 長三六・四

笈包灰匙 長三五・三

竹柄灰匙 長三八・五

小銅灰匙 長一九・六

小銅笈包灰匙 長一九・二

火箸 長二七・五

(収蔵番号) 茶二三・三

90 茶磨

高二二・〇 上径二二・五 下径三八・〇

(収蔵番号) 茶二四・一

91 茶磨

高一九・五 上径一六・八 下径二九・五

(箱貼紙) 御茶うす 寿御側

(収蔵番号) 茶二四・二

92 茶磨

高一六・五 上径一五・二 下径二六・五

(収蔵番号) 茶二四・三

93 茶磨附属品

漏斗 高三・八 径六・八 羽箒小 長一四・〇

羽箒中 長一五・〇 羽箒大長 一九・〇

竹匙 長一七・四 (羽箒一点大破)

(箱書) 御茶うす 上 附属品

(収蔵番号) 茶二四・四

94 円座

厚二・五 径四六・〇

(袋書) 御円座 五枚之内 (それぞれに有り)

(収蔵番号) 茶二五

95 黒塗定紋付茶弁当二荷 黒羅紗白定紋覆付

高五二・五 縦三六・七 横三八・〇

(収蔵番号) 茶二六・一

96 黒塗定紋付茶弁当半荷 黒羅紗白定紋覆付

高三八・二 縦三一・〇 横二九・〇

(箱書) 御茶辨當

(収蔵番号) 茶二六・二

97 鈴虫籠 花立付

高二九・〇 縦二二・〇 横二八・六

(箱書) 明治十九年 黒ぬり 鈴虫かこ 二之内

す、御花生相添 邦印

(收藏番号) 茶二七

98 唐銅耳象形大花瓶 一对

高三四・〇 口径二六・五

(箱書) 御花瓶 壹対

(收藏番号) 茶二八一

99 唐桑六角形花台

高二二・〇 縦三九・〇 横四五・〇

(箱書) 唐桑 御花臺

(包布) 唐桑御はな臺

(收藏番号) 茶二八一

100 薄端花生

金属製の花入で、生け口部と脚部が取り外しできる

ようになっている。

高一四・五 径二一・〇

(箱書) 御

(收藏番号) 茶二八一三

101 紫檀花台

100 薄端花生と組使用するとされる花台。

高一一・七 縦二二・五 横二二・五

(箱蓋表書) 紫檀 御花臺 南天印

(箱蓋裏書) 明治廿二年己丑十二月 久保久邇献上

(收藏番号) 茶二八一四

102 唐銅耳象鼻形花生

高二四・〇 口径一〇・四

(收藏番号) 茶二八一五

103 唐銅鶴首花生

二点伝来する首の長い花入れであるが、大きさと模様がわずかに異なり、同じものではない。両方とも底部がないため、装飾品として使用されたものだろうか。

高二二・八 口径五・五

高二二・〇 口径五・三

(收藏番号) 茶二八一六

104 竹花生 三点 銘 更科、銘 龍洞、無銘

更科 高四三・六 径五・一

龍洞 高四一・五 径五・〇

無銘 高五八・五 径五・五

(箱書) 感応院様御作 御花生 御銘 さら科 龍洞

外二太竹一 三

(銘墨書) さら科 無造作庵(花押)

龍洞 無造作庵

(無銘花生付箋) 未年江戸廻り御居間出

(收藏番号) 茶二九一一

105 竹花生 銘 むしろ田

高八九・〇 径一〇・六

(105~109合同箱書) 御手許 御花筒 無造庵御作 銘

むしろ田 深草の竹御花 京都嵐山下大井川渡船棹

御花筒 新

(金泥書) 蓆田 (墨書) 無造作庵

(添文書①) 竹の名所

山州 くれ竹のふしミ 同 くれ竹のはむろの里

同 深草の里竹の下道 同 た、すの竹

相州 箱根路さ、しの竹 山州 淀川竹の下道

同 は、その杜竹の下道 大和 秋しの、里

伊勢 ゆづはの村 大和 とよら守

相州 竹の下道 撰津 布引瀧ミねのさ、竹

三河 竹屋の里 同 矢ハきの里

大和 きなれの里



(添文書②) 口上書取 持参仕候竹六ヶ所 甲州古城  
菱竹 御城かき上ヶ城 地名かさ甲府

右御城は武田家二十八代御居城 之由新府御城跡ア  
り又当御城は 御番城竹はかき上ヶ城ニ御座候と  
承り案内之者召連相尋度評義 仕候処方一切取候節  
故障にも罷成 候得共却而迷惑ニ付案内無之 御城  
中へ入穿鑿仕候得共一向ニ相分 兼無詮方大手の方  
へ罷出評義 仕居候処百姓兩人通り掛り候ニ付 竹  
之義相尋候処御城中へ案内 致呉竹式本切取府中会  
所へ 指出し相送候様申談置候所 只今ニ相届不申  
早速せんさくニ 挿出し御儀ニ御座候間相届 次第  
指上可申候

男山八幡宮御神竹  
参詣仕候節拜殿ニ社家老人 罷在候間右之者へ相頼  
壺本 申受度所望仕候処夫々掛合 以の外面倒ニ罷  
成漸聞濟 役人体之者罷出参会仕候処 時節あしく  
御切被成候而も御用 達も間敷切置し竹ニテ宜候へ  
者 御用ニも相達可申と申候ニ付 評義仕候処成程  
当時切ニ而者 虫食候間切置し方可然と評義 相極  
所望仕候付差出し為見 呉候へ共太く根之方ハ無御  
座又、評義仕何卒壺本藪之内 見立申受度相頼候  
処承知 御座候付壺本切取持参仕候

御茶杓竹  
右役人へ申談候処前ニも申し通 とても御切被成候  
而も御用達 不申是ハ茶杓ニ相成候竹 宇治の茶師  
へ参り居り候夫ヲ 御持参被成候方可然と申候ニ付  
同所先さく仕候処当所ヨリハ京 都寺町通り中村屋  
ニ御望之 茶器御座候間其方ニテ御覧 被成候方宜  
と申候付京都せんぎ 仕候処成程澤山ニ御座候処不

案 内ニ而目利出来兼 御茶杓ニも罷成兼候程ハ無  
斗 奉存候へ共式本持参仕候

布引滝 ミねのさ、竹  
男瀧の側ニ茶屋御座候立寄 相尋候処竹名所之由申  
聞候間峯ニ至り見候処瀧の水 上ハ谷ニ而兩岸岩の  
間ニ、に さ々竹御座候草に取付 候而下り切取壺  
本持参仕候  
深草の里  
何れを名所とも相分り兼候へ共 壺本持参仕候  
糺の森竹  
同様ニ御座候も何れ此両條は 口上ニ而委細御咄可  
仕候

右三ヶ所持参仕候 地名のミ相知れ候分 秋篠の  
里志の竹  
南都ヨリ壺り程北之方之村ニ 御座候由承り尋参り  
承り候処 秋篠寺と申寺中ニ御座候様ニ 承り同寺  
へ罷越住僧ニ相尋候 段当所名竹ハ篠竹と申竹ニ而  
当寺杯ニ有之事ニ者無之上代 篠竹御座候ゆへ秋  
篠里と 相名附当時篠竹ハ無之当春 江戸表ヨリ御  
尋御座候処鑿穿 出来兼候由無余義引取申候 委敷  
事ハ口上ニ而御咄可仕候  
矢ハきの里

功者なものニ相尋候処神代 日本武尊東夷御征伐之  
御 当所ニ而矢ヲ御作り被成候ニ付 地名ニ罷成敢  
而名竹御座候故 の名ニ者無御座候成程所々見廻り  
候処竹も無御座候様子ニ御座候 右の外土地知れ  
兼又ハ旅行 不仕候場所も御座候委敷儀ハ 筆紙ニ  
難尽何れ以口上 御咄可仕候  
(収蔵番号) 茶二九一ニ①

106 竹花生 銘 深草の竹

高五五・五 径四・〇  
(付箋) 深草の竹  
(収蔵番号) 茶二九一ニ②

107 竹花生 銘 大井川船棹竹

高四三・八 径三・六  
(金泥書) 大み河くたす小船にさす棹の しつとも峰  
乃花の羽かは 一誠翁  
(収蔵番号) 茶二九一ニ③

108 竹花生 銘 糺の竹

高六四・五 径四・五  
(付箋) 糺の竹  
(収蔵番号) 茶二九一ニ④

109 竹花生 銘 半求庵

高二九・七 径四・五  
(墨書) 男山竹依所望半求庵作之(花押)  
(収蔵番号) 茶二九一ニ⑤

110 二重切花生 銘 天地

箱書に鯉印とあることから、真田幸良の夫人で九代  
藩主幸教の義母・貞松院の持物であろう。作者は裏千  
家十代・認得齋宗室とみられる。  
高四〇・〇 径一二・八  
(外箱蓋表書) 花生 壺  
(外箱横書) 二重切御花活 銘天地



(内箱蓋表書) 鯉印

(内箱蓋裏書) 自作二重花入 天地ト号 認得齋

(花生朱書) 天地 宗室(花押)

(収蔵番号) 茶二九一三

### 111 竹花生

高三四・四 径一一・〇

(箱書) 感応院様御作 御花生 御銘塵外

(花生墨書) 寿星庵作之

(収蔵番号) 茶二九一四一一

### 112 手桶形竹花生

一誠齋とあることから、真田幸貫の作であることがわかる。

高二一・五 径五・〇

(箱書) 111と合同

(付箋) 茶三番

(花生漆書) 一誠齋造之(花押)

(収蔵番号) 茶二九一四一二

### 113 獅子口花生

高三二・三 径一一・〇

(箱書) 十四番

(箱貼紙) 獅子口御花活

茶七番

(収蔵番号) 茶二九一五

### 114 山刀切花筒

銘から、真田幸貫作であることがわかる。

高四九・四 径七・〇

(箱貼紙) 御手許 山刀切 御花筒 無造作庵御作

(銘) 随刀磊々 随意落落々 無造作庵主人(花押)

(収蔵番号) 茶二九一六

### 115 竹花生

真田幸貫作の花入。幸貫自作の歌が書かれている。

高二六・四 径一〇・四

(箱書) 感応院様御作御銘 御花生

(付箋) 茶五番

(花生歌) 信濃国よりきし人乃ミちにておかしき竹と

て持りしにてこの花筒をなん造りてかくはよめる  
いたづらに過なは すきん むまや路の 捨ぬこ、  
ろ乃 たけそ この竹 無造作庵(花押)

(収蔵番号) 茶二九一七

### 116 竹花生 銘 風しづか、銘 ふた霜

真田幸貫作の竹製花入である。

風しづか 高三七・〇 径九・〇

ふた霜 高三二・〇 径八・三

(箱書) 感応院様御作 御花生 御銘 風しづか ふう

た霜 一

(付箋) 茶三番

(花生刻銘) 「風しづか 無造庵(花押)」

「ふた霜 無造庵(花押)」

(収蔵番号) 茶二九一八

### 117 二段切花筒 銘 千代のかざし

箱書によれば、文政六年(一八二三)に家督継承後、初めて拝領した鷹の雁を掛けた竹で作成した花筒である。鷹の雁とは、将軍が鷹狩で捕らえた獲物を下賜品としたもので、鷹の雁や鷹の鶴などと呼ばれる。この時の藩主は八代藩主・真田幸貫。山本重休については不明。

高五九・五 径四・〇

(箱蓋表書) 御銘御筆 二段切御花筒

(箱蓋裏書) 文政六年癸未十一月廿一日 御家督初而

御拝領 御鷹雁掛竹を以 御作 臣 山本重休

行年八十 謹誌

(花生刻銘) 千代のかざし

(収蔵番号) 茶二九一九

### 118 花筒 銘 千代のかざし

高四二・六 径三・五

箱書から、天保五年(一八三四)に拝領した鷹の雁に使用された竹で作られたものであることがわかる。

「御昇進後初而」とあるので、八代藩主・真田幸貫が天保二年に従四位下に昇叙した後初めての鷹の雁であったとみられる。

(箱蓋表書) 御銘御筆 御華筒

(箱蓋裏書) 天保五年甲午三月朔日 御昇進後初而

御拝領 御鷹雁懸竹を以 御作 臣 山本重休

行年八十 謹書

(花生墨書銘) 千代乃かさし 一誠齋(花押)

(収蔵番号) 茶二九一〇

119 竹二重切花生

箱書にある常修院宮は、後陽成天皇の皇子で天台座主を務めた慈胤法親王。茶事に通じていたことでも知られている。この花生が真田家に伝来した理由はわかっていない。

高四三・八 径八・五

(箱書) 竹筒二重切 常修院宮御作

(収蔵番号) 茶二九一―一

120 竹花生

署名があることから、水戸藩主・徳川斉昭の作であることがわかる。

高四〇・六 径六・二

(箱貼紙) 「御手許 水戸様御筆 御花活」

「茶三番」

(花生金泥書 咲きぬへき時も待えて冬ながら 歌色

みするうめのひと枝 斉昭

(収蔵番号) 茶二九一―二

121 垂撥

垂撥は、茶席で掛花入をかけるのに使用する道具。形が琵琶の撥ぼちに似ているところから付いた呼び名で、中央の穴から掛釘を出して、上下に動くようにして使用する。

① 高一三七・〇 幅一一・〇

② 高一三九・五 幅一五・五

(収蔵番号) 茶二九一―三

122 木の聯れん 一對

聯は詩句や絵を描いたり彫刻を施して、柱や壁などに左右対称にして飾る細長い板。蘇軾の詩の一節が彫られている。筆者は松代藩の医師・立(龍)田操。立田は通称玄伯または玄道、字を子在、楽水、静山、梧庵、松斎などといい、鎌原桐山について詩文を学び、能書家としても知られていたという。七代藩主・真田幸専から十代・真田幸民の四代に任せ、絵師・三村晴山や佐久間象山とも親交が深かったとされる。

高一六七・八 幅一二・〇

(聯刻文) 雲散月明誰点綴 天容海色本澄清

(収蔵番号) 茶三〇一―一

123 竹の聯

①は、幕末の書家・巻菱湖筆。②は八代藩主・真田幸貫の作であることが、現存する道具帳の記述から判明するものの、対になるもう一方は、失われている。③については不明。

① 巻菱湖刻文 高一三九・〇 幅一二・〇

② 真田幸貫刻文 高一五八・六 幅一一・〇

③ 一對 高一四二・五 幅一一・五

(①刻文) 山静如太古 甲申秋日 日長以小年 菱

湖客漁印

(②刻文) 文章思報国

(③刻文) 時可稱老勿勞筋骨周旋 勢能就閑無混風塵

出沒

(収蔵番号) 茶三〇一―二

124 瓢形掛板

「嘉永五年月次題」とあり、年間の月ごとの茶席における題目を書いたものとみられる。

縦三一・四 横二一・七

(収蔵番号) 茶三一―一

125 扇面掛

高八二・四 幅九・九

(収蔵番号) 茶三一―二

126 団扇掛

高一三三・八 径四・五

(収蔵番号) 茶三一―三

127 定紋付銀菓子皿

高二・五 縦二三・二 横二〇・二

(箱蓋表書) 鎌倉古瓦 (箱は当初のものではない)

(箱横書) 古瓦

(収蔵番号) 茶三二

128 心葉

縦三一・〇 横三一・五

(箱書) 心葉

(箱貼紙) 三九

(収蔵番号) 茶三三

129 定紋付梨子地鶴亀松竹蒔絵茶筥筒

梨子地梅菊に竹雀蒔絵天目台及び蓋  
銀天目台及び茶碗付

箱 高四〇・五 縦二五・五 横四二・五

蒔絵天目台 高一・五 口径一五・〇

銀茶碗 口径一〇・〇 高台径四・〇

銀天目台 高一・〇 径一五・五

(箱書) 梨子地 御茶筭筥 壹

(収蔵番号) 茶三四

### 130 黄天目茶碗

初代藩主・真田信之の所用と伝わる。

高六・三 口径一二・三 高台径四・四

(収蔵番号) 茶三五

### 131 黒茶碗

水戸徳川家の江戸・小石川藩邸後楽園で始められた後楽園焼と伝わるが、詳細は不明。

高七・四 口径一一・二 高台径四・八

(収蔵番号) 茶三六

### 132 象嵌文字文青磁茶碗

箱書や付属の文書から、八代藩主・真田幸貫から水戸藩主・徳川斉昭に贈られた松代特産の村雨硯が、斉昭から、関白・鷹司政通を経て、孝明天皇に献上され、その返礼として政通から斉昭に贈られ、さらに幸貫のもとへ下された茶碗であることがわかる。永楽保全の作で、腰下部に凹形枠に河濱支流印銘がある。

高七・三 口径一四・〇

(外箱蓋表書) 御掛物 鷹司相国御筆 一幅 御茶碗

楽焼 雲雀青磁永楽作 一箱 右御二品御伝来之旨

趣御箱御裏書 幸貫公御筆

(内箱蓋表書) 水戸黄門斎昭卿両度御消息 一卷 鷹司相国公御消息 一幅 茶碗永楽作 一箱

(内箱蓋裏書) 水戸黄門斎昭卿年此ねもころに御かへりミを蒙りしか近きころ八月花の折々御歌をさへ賜りけれハ腰 折をよミ出て御返しを聞へ奉る事しばくなりされハわかしる処に産するものなどハくさくまいらせし中に文化の頃はしめて 見出したるよしの赤柴山より出る黒き質にことさらに黒き星のさはにありて村雨といふ石を硯にものしてさ、け侍りし をことにくめで給ひしか又も望ませ給へハ、こたひハ殊に大きなると又小さきと二つまいらせしをやかて鷹司関白殿下によりて 大内へ奉り給ひしとぞ外に殿下へ書物なんと贈給ひしにて其御いらへにとて殿下より御文もて御茶碗を贈りこし給ひしをわが家 に御文ともひめおきて後の世のあかしにもせよと卿より仰事ありけり此硯世にあらハれて うちの御物となりしハわれのみか 石の面目ともいふへしまた卿の御心はへの忝さいひも尽しかたし殿下の御文を表装し御茶碗にそへてともにひめ置ぬ わか後の子ら孫らにしらしめんと箱のうらにしるし置ぬ

嘉永三年庚戌みな月末の八日 松代侍従幸貫誌

(茶碗単独箱書) 雲鶴青磁 御茶碗

(同箱底書) 保全造印(永楽)

(同梱掛軸・鷹司政通筆徳川斉昭宛書状)

再答令拝誦候如往年 新曆御楽二無疆珍重候 先以御揃御安健恭賀候 従是も扱々御無音失本意候 此度珍敷御硯御内々御進献 早速令傳献候処入 般覽深以御満足尚幾久 敷御用と厚宜申入 仰候於下官

拝見候格別之 名品初一見候辱御座候先以 謝伺迄如此候也恐々謹言

御細書辱承候追々向暑御 厭御座候扱ハ蜜蠅抄海外新 話上木候とて賜り思入候抄物ハ先 年写本にて一覽候新話ハ当 春前より一覽候て末上木のハ不所持山々御札申入候且□昨年拝受 今ハ相用格別の名品好物深々思入候 尚又漁獵次第被仰付候由大二相楽候 此茶わん永楽手製候不出来ながら 御覧二入候御笑納可思召候不具

五月十三日燈下認 御内様眼氣悪敷 其上筆とりかね

大乱書無心躰拝覧希入候也

水戸中納言殿 拝意 政通

(同梱卷子・徳川斉昭筆真田幸貫宛書状 幸貫添書)

梅雨鬱々無御障為 天下令拝賀候扱ハ先達 而之村雨 昨念凡如 別紙申来候故則入貴覽候 石も本意なる事二候同時 到来候茶碗君二茶事 御用にも可相立哉と序故進 呈申候也

六月朔 信州殿じ史 水隠

嘉永三年六月朔日水戸黄門斎昭卿より此ふくさに添て賜ふ処なり

一此間申進候鷹司よりの書ハ村雨天上の 証二相成候へハ御留置にてよろしく其節 申進候通り未返書不致候故文言斗 貴兄御写しにて御返被下候へハよろ敷候 只此節の世態故安中等の外へ右 書面ハ御見せ無之候方よろしく候と存候

同月五日といふに同卿よりへちに仰下さる事ありし其御消息乃うち村雨石に故よしあるところを切取りのち 此世のあかしとせんとここに乃せはへるなんありける 滋野幸貫誌

(収蔵番号) 茶三七

### 133 蓮華王茶壺

豊臣秀吉の朝鮮出兵の際、肥前・名護屋に参陣した真田昌幸に褒賞として下されたと伝わる茶壺。いわゆるルソンの壺といわれるもので、四耳の中間に蓮華の花弁と王の文字があることから蓮華王と呼ばれる。箱には御茶入日記二点が貼り付けられているが、時代は不明。

高三五・二 口径九・五

(箱蓋表貼紙) 蓮花王御茶壺

(収蔵番号) 茶三八一

### 134 蓮華王茶壺口覆・網袋 羽箒付

蓮華王の茶壺の口覆と網袋。羽箒が付属している。

箱書には元文三年(一七三八)、宝暦十年(一七六〇)の年記があるが、詳細は不明。

(箱蓋表書) 網 一 乳緒 二 真壺口覆 一 口緒

一 取緒 一

(箱蓋裏書) 元文三年 午二月廿三日 御婚礼之節出来

乳緒取緒者 宝暦十庚辰年五月十二日 御婚礼之節

出来 大沢氏

(収蔵番号) 茶三八一二

### 135 卯の花茶壺

133 蓮華王茶壺とともに、豊臣秀吉から贈られたとされるルソンの壺。箱蓋裏には御茶入日記二点が貼られているが、時代は不明。

高二六・三 口径八・四

(収蔵番号) 茶三九一

### 136 卯の花茶壺口覆・網袋

(箱書) 茶壺覆一 同網一 同口緒一 乳緒一房付

(収蔵番号) 茶三九一二

### 137 枝炭

(箱蓋表書) 進上 光瀧白炭 卯

(箱横貼紙) 番外枝炭

(箱横書) 枝炭

(収蔵番号) 茶四〇



# 史料紹介

## 御道具帳

(国文学研究資料館所蔵真田家文書26Aあ3216)

凡例

・ 貼紙・付箋は□であらわした。

・ 一つ書きの部分の□は白紙付箋、そうでない□は、

左隣の行上に貼られている付箋を示している。

(表紙) 御道具帳

○一 御枕鑑鞘	○一 波之御枕	○一 御刀掛	○一 洞簫 七管入	○一 明笛	○一 遠眼鏡	○一 御枕鑑鞘	○一 御掛ケ板	○一 焼桐御絵具箱	○一 同三重組御筆箱 但御絵具入	○一 御絵具箱	●一 御灸盤 但御火入共	○一 合燈 内壺ツフレッキ	○一 フレッキ燈	○一 特基盤	○一 惕堂御額	○一 火ノ用慎入大瓶	○一 角赤	○一 御風磬	○一 錫囲海苔壺	○一 葉研	○一 御紋付御絨箱并御仕掛箱共	○一 御文具 但八筆本二品入	○一 碁貝	○一 利満弓	○一 焼桐御箱 文聰院様御書類入	○一 青貝文書箱	○一 絃琴	○一 御麾	○一 太鼓 バチ添	○一 横笛 但笛無	○一 楊弓 但正継作	○一 黒塗三重組御絵具箱	○一 螺貝	○一 唐銅薄端花活	○一 阿蘭陀水棒	○一 銀荒巻御鞭	○一 御駕籠入篋筒	○一 青地蔓付御蓋物	○一 御水屋瓶 但割蓋添	○一 黒建目録箱	○一 唐四神鏡	○一 疊御机	○一 四挺からミ御筒	○一 会尔尺等之御物差 但真鍮三ツ折	○一 利満弓	○一 御扇面帖	○一 矢ノ根拾六本入	○一 焼桐御絵具箱	○一 御通中前御刀掛	○一 黒塗御紋付御茶筆筒	○一 黒塗筆箱	○一 唐銅釣花活	○一 御嗽道具	○一 唐銅御手洗鉢	○一 算盤	○一 唐銅卓下花活	○一 道斗	○一 紫檀御盃臺	○一 一切子ピン式本入	○一 根来膳五枚	都筑嘉兵衛	○一 同 椀五人前	○一 半田ほうろく	○一 備前焼灰ほうろく	○一 御烟竹盆 萬年革彫透し	○一 朝日焼御茶碗式	○一 唐銅獅子之御香爐	○一 同 蜜柑形御風呂	○一 一切合御釜	○一 御釜 水府製	○一 唐銅御水差	○一 同 水麴	○一 同 御柄杓立	○一 黒塗長板	○一 銀唐草模様御花生	新六番御長持	○一 丸古釜 御蓋ニ誠齋常用之御銘有之	○一 会尔尺等之御物差 但真鍮三ツ折	○一 利満弓	○一 御扇面帖	○一 矢ノ根拾六本入	○一 焼桐御絵具箱	○一 御通中前御刀掛	○一 黒塗御紋付御茶筆筒	○一 黒塗筆箱	○一 唐銅釣花活	○一 御嗽道具	○一 唐銅御手洗鉢	○一 算盤	○一 唐銅卓下花活	○一 道斗	○一 紫檀御盃臺	○一 一切子ピン式本入	○一 根来膳五枚	都筑嘉兵衛	○一 同 椀五人前	○一 半田ほうろく	○一 備前焼灰ほうろく	○一 御烟竹盆 萬年革彫透し	○一 朝日焼御茶碗式	○一 唐銅獅子之御香爐	○一 同 蜜柑形御風呂	○一 一切合御釜	○一 御釜 水府製	○一 唐銅御水差	○一 同 水麴	○一 同 御柄杓立	○一 黒塗長板	○一 銀唐草模様御花生	新六番御長持	○一 丸古釜 御蓋ニ誠齋常用之御銘有之
---------	---------	--------	-----------	-------	--------	---------	---------	-----------	------------------	---------	--------------	---------------	----------	--------	---------	------------	-------	--------	----------	-------	-----------------	----------------	-------	--------	------------------	----------	-------	-------	-----------	-----------	------------	--------------	-------	-----------	----------	----------	-----------	------------	--------------	----------	---------	--------	------------	--------------------	--------	---------	------------	-----------	------------	--------------	---------	----------	---------	-----------	-------	-----------	-------	----------	-------------	----------	-------	-----------	-----------	-------------	----------------	------------	-------------	-------------	----------	-----------	----------	---------	-----------	---------	-------------	--------	---------------------	--------------------	--------	---------	------------	-----------	------------	--------------	---------	----------	---------	-----------	-------	-----------	-------	----------	-------------	----------	-------	-----------	-----------	-------------	----------------	------------	-------------	-------------	----------	-----------	----------	---------	-----------	---------	-------------	--------	---------------------

### 新式番御長持

#### 組立巨燵槽

#### 一 フレッキ洋冠

#### 一 御刀掛

#### 一 御紋付黒塗御箱 内式ツ被下相成

#### 一 御踏板 但御絵御用

#### 一 劔鎗御道具

#### 一 火熨斗 但臺共

#### ●一 焼桐御箱 文聰院様御書類入

#### 一 青貝文書箱

#### 一 絃琴

#### 一 御麾

#### 一 太鼓 バチ添

#### 一 横笛 但笛無

#### 一 楊弓 但正継作

#### 一 黒塗三重組御絵具箱

#### 一 螺貝

#### 一 唐銅薄端花活

#### 一 阿蘭陀水棒

#### 一 銀荒巻御鞭

### 新四番御長持

#### 一 御駕籠入篋筒

#### 一 青地蔓付御蓋物

#### 一 御水屋瓶 但割蓋添

#### 一 黒建目録箱

#### 一 唐四神鏡

#### 一 疊御机

#### 一 四挺からミ御筒

壹箱  
二  
壹箱  
壹箱  
一張  
壹箱  
壹箱

壹  
壹  
壹脚  
三箱  
十枚  
壹ツ  
二ツ  
壹箱  
壹箱  
壹箱

三ツ  
二箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱

茶283

壹本  
壹箱  
壹

壹  
壹箱  
壹ツ  
壹ツ

壹脚  
壹箱  
壹箱  
壹箱

壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱

壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱

壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱

壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱

壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱

壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱

壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱

壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱

壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱

壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱

壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱  
壹箱

○一両口手取釜 御銘御筆 奩箱

○一御茶杓 御銘清露 風月 奩箱

○一芋頭御茶入 大暎院様より御頂戴 奩箱

○一御庭焼鈎付御茶入 割蓋 奩箱

○一霍首御茶入 銘残雪 又氷室 奩箱

○一御庭焼御茶碗其外御香合類 奩箱

○一八代御茶碗式 御同方様御好 奩箱

○一白御茶碗 御銘玉兔 渡辺宗大夫作 奩箱

○一黒 同断 御銘色音 同人作 奩箱

○一黒 同断 御銘金鷹 同人作 奩箱

○一黒筒御茶碗 銘なち 御同方様御好 奩箱

○一黒火替御水差 道人作 奩箱

●一黒長角片口御水差 鯉之模様文山作 奩箱

○一黒御水指 御同方様御作 奩箱

○一唐物写御水次 名越弥五郎作 奩箱

○一竹 御銘亀の尾 御同方様御作 奩箱

○一花配り形御花生 一誠斎造之 奩箱

○一御花生 塵外 寿星庵造之 奩箱

○一同 ふた霜 無造作庵 奩箱

○一同 風しつか 無造作庵 奩箱

○一同 更級 奩箱

○一同 龍洞 奩箱

○一獅子口御花生 右同断 奩箱

○一すゝ竹 同断 奩箱

●一牡丹御香合 二条御城御欄間之彫物 奩箱

○一対鳳凰御長盆 右同断 奩箱

○一御茶碗類 楽焼御下地共 御同方様御好 奩箱

○一竹御茶碗臺共銀覆輪 御同方様御作 奩箱

○一御花生 千代のかさし 右同断 奩箱

○一二段切同断 定信公御作 奩箱

○一御花生 同公御手焼 奩箱

○一德利形同断 鈎付御徳利損シ 御同方様御好 奩箱

○一御花生 むしろ田 右同断 奩箱

○一同 大井川船棹 右同断 奩箱

○一同 深草の竹 右同断 奩箱

外二札の森竹 奩本入有之 茶29 2 4

御同方様御好 一 張拔御茶碗 奩箱

一 水戸様御手焼御茶碗并御茶杓 茶5 1 1カ

新六番御長持 (ママ)

一 御鞍 金御紋付梨子地水仙蒔絵付 一背

一 御煙草盆 但御紋散御道具添 一對

一 心月流手裏剣 奩箱

一 御拂子 奩箱

一 アメリカ仕掛階子形 奩本

一 筥籠 式ツ

一 錫喀鍋 奩箱

一 御小鼓胴 奩箱

一 御手本類 奩箱

一 御側御田楽道具 奩箱

一 御鞍 黒塗枝楹金高蒔絵折紙添 奩箱

一 息討器 武具216カ

一 矢ノ根拾六本入 武具70カ

一 将碁盤 奩面

一 筥ノ家 奩ツ

一 一切子コップ 奩箱

一 鉦 奩

○一御箸建 沓箱

○一御まんちう蒸 沓箱

被下二相成

○一硝子御蓋物 沓箱

○一梅模様大小御盃 沓箱

被下二相成

○一番組御盃 沓箱

○一深手 御焼物皿五ツ 御焼皿五ツ

○一硝子朝顔形コップ 沓箱

○瀬戸物御水差 沓箱

○一キヤマン五ツ組御盃コップ式 沓箱

○一硝子コップ式 沓箱

○一銀御銚子壺対 沓箱

○一楽焼薄椀十ヲ 沓箱

○一唐銅御湯わかし 沓

○一白焼御猪口皿 沓箱

○一御寿盆 沓箱

真常院様御常用

○一御椀 沓箱

○一梨子地御食籠 沓箱

被下二相成

○一朱塗蒔絵御硯蓋 沓箱

○一四合五勺入御寿盃 沓箱

●一神代杉御盃臺 沓箱

○一南京素焼御茶出シ 沓箱

○一梨子地御紋付御盃 沓箱

○一竹模様染付猪口 五ツ

新八番御長持

○一御爐縁 小板沓枚入置 三 三斤

被下二相成

○一尹部焼御丁字風爐 沓箱 三斤

小林伴治

○一唐銅兔耳付御水指 沓箱 五〇

野中嘉左衛門

○一同 御花生 沓箱 沓〇式

○一同 平御水指 沓

○一屋根瓦槌御硯箱 沓箱 沓〇

○一唐藤御花生 沓箱 沓分

○一蓮花王御茶壺 沓箱 三〇茶381

竹内多吉 乃之処安直と申事付沓円直ス也

○唐銅角御花生 沓 沓分

○一同卓下御花生 沓 沓分

被下二相成

一青磁獅子御香爐 沓 沓分

○一朱琉球御卓 沓 三斤

○一御羽箒 沓包

一御備茶碗臺蓋共 沓箱

被下二相成

一唐銅獅子御香爐 沓 沓〇

倉田三之丞

○一南京扇形御皿五枚 沓箱 沓〇二

○一朱角御菓子盆五枚 沓箱 沓分

新九番御長持

○一朝鮮御茶碗 沓箱 沓斤

○一唐銅鴛鴦御香爐 沓箱 三分

○一同鶏御香爐 沓 沓分

○一御圓盆四方盆 沓箱 沓分

○一黒塗御小板 沓枚

○一七宝鉤付御鉢 沓箱 三〇式

○一同 大井 沓箱 三〇

一赤御茶碗 沓箱 式匁

○一水府産御小板 沓箱 三〇式

○一志野織部御皿五ツ 沓箱 三分

○一同 御水指 沓箱 三斤

一御天目臺 沓箱 沓斤

○一小田原八幡山竹御花生 沓箱 沓斤

倉田三之丞

○一唐物籠形御花生 沓箱 沓〇式

一雁金御紋付御菓子盆十ヲ 沓箱 沓分

○一空炉御香爐 沓箱 沓〇

桜井與吉

○一唐銅御風呂 矢野唯見 沓 沓〇式

○一御花生 幸立斎作 清水道竿門弟 沓箱 沓斤

○一キンマ御水瀝御水指 沓箱 沓〇

○一御袋棚 沓箱 沓〇

○一松竹模様角御猪口 沓箱 沓斤

○一瓢箪形御看入 沓箱 沓斤

○一黒茶碗 沓箱 沓分

被下二相成

○一織部御菓子入 沓箱 沓分

一獅子口御花生 宗沙作 沓箱 沓分

○一南京同断 沓箱 沓分

○一山刀切同断 沓箱

布施高田村瀬原田組 町田新九郎

一赤萩御茶碗 沓箱 沓分

同断 同 瀧澤作治

○一赤楽同断 沓箱

○一藤沢焼御茶入 沓箱 沓斤

○一尹部焼御手塩皿 沓箱 沓斤

○一瀬戸御茶入 沓箱

一伊賀焼御茶碗 沓箱

○一朝鮮焼御水瀝 沓箱

○一織部焼小板 沓

一ノ字ヲ除キ橋立と御直ッ被成下候 沓箱 沓〇

一橋立御茶箱 沓箱 沓〇

一水晶桃之御置物 矢野唯見 沓箱 沓〇

○一高取御水指 沓箱 式分

○一信楽鬼桶同断 沓箱 沓分式朱

○一御圓座 五枚

○一宣徳せきれい御香爐 沓箱 三斤

○一唐津焼茶碗 沓箱 式分

新拾番御長持

○一御茶弁当 沓箱 沓斤

式荷

但銀御銅庫御油单棒添  
○一御花生

新拾貳番御長持

○一珠金御料紙硯箱  
○一朱塗御料紙硯箱  
○一大理石鉄刀木御硯箱  
○一御鞍一背 但棕欄ノ葉蒔絵  
外二板三尺壹ツ添

○一青貝御料紙箱  
○一青貝模様御料紙硯箱

○一月琴

○一御物差

○一南京染付瀬戸御腰掛

新拾参番御長持

○一御香作り物入  
○一三船  
○一御香札  
○一紫檀御香篋筒  
○一黒塗蒔絵御篋筒  
但内御香道具品々入

○一楡錦精薫器

○一御加羅挾

○一御加羅割道具

○一御香道具入

○一黒塗御葉篋筒

○一御葉通箱

○一御盆石御道具  
○一御盆石之御盆  
○一二重組御香道具入  
一銀梨子地御葉篋筒  
但油单添

忝対

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

○一梨子地蒔絵御小盆  
○一同御葉通箱

新拾貳番御長持

○一綱手御釜  
○一唐銅面取御風爐  
○一瓢箪御釜  
○一霍首同断  
○一霍首同断  
○一車軸同断  
○一古岩屋同勇庵殿より拾五円御買入之由  
○一天明同断

○一石州好筋同断

○一遠州好四方同断

○一唐銅御風爐

○一位之木組御炭取

○一朝鮮焼芋頭御水指

○一青貝入子丸御盆五枚

○一御灰ヒ

○一黒御会席椀五人前

○一唐銅襟子御風呂

○一御小鼓

○一大鼓之調

○一小鼓之調

○一羯鼓 但御能之道具

○一御まり掛  
○一御花屏風  
○一唐銅花生  
○一竹二重切同断

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

○一真名霍御花生 八十四翁作  
根本善左衛門様より御到来

○一石見た、ら製同断

○一備前焼同断

田安一位齊匡様御自作御同方様より御到来

○一竹同断

○一カナツホ同断

○一焼物御花生

○一瀬戸物同断

○一蛸壺同断

○一阿波之志は竹 同断 萬里被仰付

被下相成候

○一備前焼形香爐

○一白銅獅子同断

○一丸香臺

○一尺八御花生 男山竹 半求作

竹内藤左衛門

○一具利御茶箱

○一白高麗御茶碗

○一唐津同断 忝

○一赤玉の絵同断 忝

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝箱

忝斤

忝斤

忝斤

忝斤

忝斤

忝斤

忝斤

忝斤

忝斤

忝斤

忝斤

忝斤

忝斤

忝斤

忝斤

忝斤

忝斤

忝斤



下小嶋田村

○朝鮮伊羅保同断

○四方黒同断 有節作

○能茶山濃 同断

○唐津 萩 同断

水戸様御庭焼

○黒同断

同断

○赤同断

○高取同断

○唐銅御花生

○小判形白銅盆

○風呂前土器

○唐銅御茶巾盤

一瓢御炭取

水戸斉昭公御作御同方様より御到来

○御花生

○竹自在

圓明院様御遺物

一御茶壺 銘卯の花

一同断 覆御口緒共

○一石之袋御花生 沢勇磨献上

被下二相成

一赤同断

○黒同断

○一高麗名物手同断

○一新火襷御水指

○一堆朱御花盆

上小嶋田村 常然寺

○八代制御茶碗

○一南蛮芋頭御水指 猪瑞珉平写

○一青磁耳付御花生 同断

奩箱 壹分

奩箱 貳分

奩箱 貳分

奩箱 壹分

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

○一春日社 但御土器師淺田九兵衛より有之  
御看入二相成候御品成

○一練鼓御香炉

○一半使御茶碗

新拾五番御長持  
一瀬戸南京写御香合

下小嶋田村

一備前焼獅子同断

○一南蛮象眼同断

○一鎌倉彫牡丹同断

○一鳥の跡同断

但感応院様御筆添并岩下清酒書添

○一明石浦同断

下小嶋田村

○一銀鴛作同断

○一南京御たきもの入 御茶道印

下小嶋田村

一丸平形時代蒔絵御香合

○一鱧口同断

○一南京赤絵角同断

一白蔵司同断

○一織部形角同断

○一（馬）染附同断

南京 玄叟花押アリ

○一亀同断

守國院様御好

○一桑字同断

伊沢美作守様より御到来

○一南京瓜形同断

一キヤマン同断

感応院様御好

○一三輪杉同断

網嶋村 小山弥十郎  
○一茄子形信楽同断

奩箱 壹分

奩箱 貳分

奩箱 貳分

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

○一古尹部同断

○一瀬戸上底同断

一鳴海同断

同村 小山菊治

○一宇治焼同断 銘たるひ  
小堀権十郎様歌

大雲院様御遺物

○一埋木御香合

○一黒塗葵紋大聚

竹内多吉

○一安南薄葉茶碗五人前

○一杓形御碗茶 御茶道印

○一織部筒同段 同断

○一杓形同段 御茶具印

○一高麗同断 唐津 南部坂御茶道印

網懸村 福泉寺

赤楽同断

被下二相成

一南蛮扇形御香合

○一唐物堆朱同断

下小嶋田村

○一道八焼亀同断

下水鉤村 中嶋治右衛門

○一朝鮮同断

一中代玳瑁同断

○一袖 同断 長国寺献上

○一堆朱同断 舎印

○一丁子形青貝同断 西村角南献上

○一腹鼓同断 河原舍人献上

○一霍の玉子同断

一甲印御香爐

○一安東焼御猪口五 沢勇磨献上  
守國院様より御到来

奩箱 壹分

奩箱 貳分

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

同断

○一南京焼御香合	御茶道印	壹	壹分	○一具利御香合	此品は大鋒寺什物ニテ	壹箱	茶4・1	○一黒楽同断	宗人作	壹箱
○一青磁御香爐	御茶道印	壹箱	貳分	○一飛葉御香爐		壹箱	三分	○一朝鮮御本同断		壹箱
○一平戸焼伏籠同	壹箱	貳分		○一田村 専福寺		壹箱	三分	○一竹彫虎御香盒		壹箱
○一鈇	貳口			○一朝鮮御茶人		壹箱	三分	○一青磁御香爐		壹箱
○一御菓子入銅盆	壹箱	壹斤		○一高麗同断	河原舍人献上	壹箱	三分	○一夜学燈		壹箱
○一丹波御茶入	壹箱	壹斤		○一松井焼同断		壹箱	三分	○一南紀男山焼水麴		壹箱
○一吉兵衛同断	壹箱	壹〇貳		瀨戸大海		壹箱	三分	野中嘉左衛門	河原均	壹斤
一猿手同断	御武具印	壹箱	壹分	一小大海同断	舍印	壹箱	壹〇	○一南京御向皿五枚		壹箱
○一水滴同断	三洲土佐守手焼	壹箱	壹斤	○一御茶人	御茶道印	壹箱	壹分貳朱	○一同赤絵御茶人		壹箱
○一織部耳附同断	京香合師作	壹箱	壹〇貳	一高麗御茶碗	元印	壹箱	壹分	○一七宝自在鎖 鉄自在鎖		壹箱
○一薩摩同断		壹箱	壹〇	○一南京染付筒同断	舍印	壹箱	壹〇貳	一高麗御茶碗	河原均	壹箱
○一茶人	大英寺献上	壹箱	三分	○一織部同断		壹箱	壹〇貳	○一堆朱丸型御菓子重		壹箱
○一瀬戸源十郎同断		壹箱		土井大炊頭様より御到来		壹箱	茶8・2	○一唐物御菓子入		壹箱
被下二相成		壹箱		○一黒楽同断		壹箱	壹分	○一瓢箪時絵大棗		壹箱
一佐渡五月雨山杉御棗		壹箱	壹斤	○一二葉葵模様御菓子盆	小山田采女献上	壹箱	壹分	被下二相成		壹箱
○一紀州焼同断	鈴木宗休差上	壹箱	壹分貳朱	○一地紙形銘々盆		壹箱	壹分貳朱	○一白御小茶碗		壹箱
○一志野織部御茶碗		壹箱	壹〇	○一稻妻形御香合		壹箱	貳分	○一富士絵御茶碗 耳入		壹箱
○一大樋同断	八田嘉助献上	壹箱	貳分	○一幸存御茶人		壹箱	貳分	○一金しゃち御香合		壹箱
一葵紋付同断	亀田庄右衛門献上	壹箱	壹〇	○一廣口瀨戸同断		壹箱	貳分	○一南京御盛臺		壹箱
被下二相成		壹箱		○一高取同断	御茶道印	壹箱	貳分	被下二相成		壹箱
一赤楽玉の絵同断	願行寺献上	壹箱	貳分	下水鉤村 野本良吉		壹箱	壹分	一黒御茶碗 一入 銘なてしこ		壹箱
○一萩同断	赤沢醉翁献上	壹箱	貳分	○一楽手付同断	可人作	壹箱	三分	○一御棗		壹箱
○一なまこ手御茶人		壹箱	三分	出 一黒御中次		壹箱	三分	○一能川御茶碗		壹箱
○一大学守手同断		壹箱	三分	水野出羽守様より御到来		壹箱	三分	○一唐物竈御菓子盆五枚		壹箱
○一石州形雪吹		壹箱	三分	○一松竹梅大御棗		壹箱	貳分	○一青磁角御皿		壹箱
○一朝鮮御茶碗		壹箱	壹〇	○一神代大樋黒御茶碗		壹箱	貳分	下小嶋田村		壹箱
○一黒 同断	吹上御庭之土ヲ以	壹箱	壹分	力石村 如法寺		壹箱	壹分	○一萩塩桶御茶碗		壹箱
○一赤 同断	吉左衛門作	壹箱	貳分	○空中焼同断		壹箱	壹〇	○一竹御蓋置 重森宗和		壹箱
○一水戸様御作同断		壹箱	貳分	○一井戸脇同断		壹箱	壹〇	○一蛤御香合		壹箱
○一御天目		壹箱	三〇	○一青井戸同断		壹箱	貳分	○一桐御紋梨子地御香合		壹箱
○一唐物曲利天目台		壹箱	三〇	○青磁孔子同断		壹箱	壹分貳朱	○一伊まり焼唐子御蓋置		壹箱
○一唐銅水筆		壹箱	壹〇	土口村 飯嶋源三郎		壹箱	壹分	○一前土器		壹箱
○一染附こし立		壹箱	壹分	一呉洲同断		壹箱	壹分	○一唐銅御手麴		壹箱
○一南蛮ちまき御花入		壹箱	壹〇	上徳間村 宮入五右衛門		壹箱	壹分	○一御熨斗臺三方		壹箱
○一古瀨戸大耳附御茶人		壹箱	壹〇	一御本同断		壹箱	壹分			壹箱

○一 龜御香合 六兵衛 壹箱 壹分貳朱  
 ○一 御茶入 玉川手大海 上箱如鱗 壹箱 壹〇一  
 ○一 同 同斷 壹箱 壹〇  
 ○一 仁清霍御香合 同斷 壹箱 壹分  
 ○一 菊桐模様御雪吹 壹箱 三分  
 ○一 黄天目 壹箱 貳〇〇  
 一 感応院様御作御茶杓 老らく 竹嶋  
 御銘寢覚 霧の海  
 七夕 安支静  
 ふねひとつ 岩崎 同斷  
 身も静 暮静 君ヶ恵  
 花静 雪たるま 通臂猿  
 以岩崎屋上 松かさり 神風  
 以柳生村之竹 君ヶ千代

○一 御茶杓 道安作 壹  
 ○一 醉翁之面類同斷 秋山平内作 壹  
 ○一 御茶杓 酒井如山作 壹  
 ○一 同 山田宗徧作 壹  
 ○一 薄さひ同斷 宗友作 壹  
 ○一 御茶杓 古田織部作 壹  
 ○一 同 重森宗和作 壹  
 ○一 同 銘蓬菜 特山作 壹  
 ○一 同 銘雪折 細川采女正利昌作 壹  
 ○一 同 銘一見ヶ浦 田安一位様御作 壹  
 ○一 御茶杓 仙台吉村公御作 (花押) 壹  
 一 同 大雲院様御遺物 壹  
 ○一 埋木同 石州公御作 壹  
 ○一 御茶杓 無色庵 萬里江被仰付細工 壹  
 ○一 同 怡溪作 壹  
 ○一 同 清水釣玄作 古筆極札添 壹箱  
 ○一 同 三本人 不羨作 壹箱

○一 黒塗御楊弓矢箱 壹  
 ○一 御弓かけ 壹箱  
 ○一 御押手かけ 壹箱  
 ○一 古鏃御征矢三本 壹箱  
 ○一 羽林臺 壹箱  
 ○一 竹御ゑひら 壹  
 ○一 御鎗之身 但之平作 壹箱  
 ○一 胴馬 壹箱  
 ○一 御塗笠式臺入 壹箱  
 ○一 御守刀入御箱 壹包  
 ○一 御軍用杓 壹箱  
 ○一 御弓かけ 壹箱  
 ○一 御守袋入 壹箱  
 ○一 あやへ笠 壹  
 ○一 アンペラ御笠 壹  
 ○一 黒塗御刀掛 壹脚  
 ○一 術手 貳本  
 ○一 萬宝 貳箱  
 ○一 御弓矢臺 壹脚  
 ○一 御鼻紙臺 六箱  
 ○一 同 壹包  
 ○一 御櫛箱 壹箱  
 ○一 猫石 壹箱  
 ○一 孔雀石 壹箱  
 ○一 舍利石 調度144  
 ○一 かせ玉 調度140  
 ○一 星糞石 壹箱  
 ○一 たこ舟 壹箱  
 ○一 御前建 調度番外

○一 唐銅毘沙門燈臺 壹箱 壹分貳朱  
 ○一 喚鐘 手木添 壹箱 貳〇  
 一 唐銅鹿二福祿寿御香炉 下二相成 壹箱  
 上徳間村 宮坂彼右衛門 壹  
 一 同蟹御筆架 壹  
 上徳間村 宮入嘉右衛門 壹  
 一 同島臺形御文鎖 壹  
 一 同御掛花生 壹  
 一 錦手洗盛瓶 壹箱  
 一 馬腦御硯屏 壹箱  
 一 同 御筆架 壹  
 一 堆朱御香盆 壹箱  
 一 朱 同斷 壹箱  
 一 堆朱牡丹形御香合 楊茂作 壹箱  
 一 青磁御香爐 壹箱  
 一 唐銅御硯屏 壹箱  
 一 同老子麒麟御香爐 被下二相成 壹  
 一 燒物御香炉 壹斤  
 一 堆朱御香合 壹分  
 一 蠟石御香合 壹分  
 一 馬腦御筆洗 壹分  
 吉野芳馬 壹  
 一 南京焼御水鉢 壹箱  
 一 鉄御花生 壹  
 一 御茶壺之口覆紅網口緒乳緒 壹箱  
 一 唐銅釣御香爐 壹〇式  
 一 同 御砂鉢 壹箱  
 一 富士形御硯自然石御硯 壹箱  
 倉田三之丞 壹箱  
 一 御丁子風呂呂銀網蓋 壹〇  
 一 異国三将之額 一豁斎筆 壹箱  
 一 唐銅きりん御文鎖 壹箱  
 一 同卓下御花生 八枚  
 一 同薄板 壹  
 一 御水指 但唐銅 壹

新拾六番御長持 一瓦御硯  
 新拾七番御長持 金井友之進 一唐銅御湯鍋 一端溪御硯  
 東京行 一瓦御硯





新二拾番御長持

一御烟竹盆 但桂林院様より被進

一煤牡丹模様御煙草盆

一藤縁御烟竹盆 但三ツ道具添

一黒塗富士蒔絵御煙草盆

一貴姫様御分御煙草盆

一春慶檀御煙草盆

一唐草蒔絵御煙草盆

一御火入灰吹三通御烟管式封入

一手附御手焙

一連環御煙草盆

一菊透御手焙 但田安様より御到来

一錦花鳥染付御手焙 但九鬼神様より御到来

一黒筭木形御手焙 但楽翁様より御到来

一御袂入御手爐

一仙徳御手焙 但桐臺添

一青貝二重御煙草入

新式拾二番御長持

一仙徳御水指

一染付唐草手桶形同断

一内かま同断

一信楽焼塗蓋同断

一唐津焼同断

一石州好備前焼桶同断 河原舎人献上

一備前三ツ耳付同断

一青跣趾同断

一伊賀同断

一山水模様同断

一車軸御釜

一蓮葉形同断

一三斎好四方同断

一少庵好霰巴同断 因幡作

一少庵好霰首同断 浄味作

一筒同断 色紙模様探幽他絵 遠州公御歌 極札有之

一唐銅大蓋焼口同断

一桜模様同断

一石州公御作御花生 高林庵

一黄瀬戸角皿五枚入

一批杷形向附皿

一御風呂敷土器

一青磁御壺

一朝鮮竜模様御水次

被下二相成

一霍首御水次

一南蛮内環水飜

一大師形御飯櫃

一青貝三角小重箱

一卍字形御釜

新式拾二番御長持

一黒塗山水蒔絵御香臺

一青貝丸型御卓

一朱盈御卓

一月日貝御香合

一唐銅桔梗口御花生

一唐銅御砂鉢

一竹獅子口御花生

一南京染付 同

被下二相成

一錫月形 同

一御喚鐘

一富士形御釜

被下二相成

一十本松富士釜 莊兵衛作

一風呂釜 定林作

一唐銅御水指 山城作

一青磁焼物御水指

一印判形蓋置

一唐銅御花生 一南京卓下臺付御花生

一梅花御香爐

一堆朱蘭亭凶彫御筆建

一具利御文庫

一竹籠御花生

一真鍮茶出し

一赤塗御花桶 但損シ

一寸渡切掛御花生

新二拾三番御長持

一朱塗御飯次 杓子添

一青貝模様御花臺

一具利御軸盆

一御服紗

一網蓋御留香爐

一青貝六角重香合

一丸形御飾墨三ツ

一堆朱牡丹御香合

一鳥形御香合

一黒沈金同断

一イキリ又同断

一七宝御香爐

一唐銅馬御文鎮

一同 寒山同断

一胡銅馬御香爐

一御花溜

一黒竹蒔絵御硯箱御文臺

一扇形御花臺

一垂撥

新二拾四番御長持

一本地二重卓

一鶉籠

一蘇鉄御花生

一黒塗御花臺一対入

一御茶臺類入

一紫檀御卓

一梅花御香爐

一具利御文庫

一竹籠御花生

一真鍮茶出し

一赤塗御花桶

一寸渡切掛御花生

朱塗御飯次

青貝模様御花臺

具利御軸盆

御服紗

網蓋御留香爐

青貝六角重香合

丸形御飾墨三ツ

堆朱牡丹御香合

鳥形御香合

黒沈金同断

イキリ又同断

七宝御香爐

唐銅馬御文鎮

同 寒山同断

胡銅馬御香爐

御花溜

黒竹蒔絵御硯箱御文臺

扇形御花臺

垂撥

本地二重卓

鶉籠

蘇鉄御花生

黒塗御花臺一対入

御茶臺類入

紫檀御卓

○一黒塗御花臺  
○一真切しん壺  
○一唐銅大御花生  
○一新渡御花生  
○一唐物青貝御卓  
壺ッ  
壺ッ  
壺箱  
壺箱

新式拾五番御長持

一御藥割臺 壺箱  
○一矢根 壺箱  
○一御刀掛 壺箱  
○一かつ鼓 壺箱  
一仕掛小筒 壺箱  
○一御刀建 壺ッ  
一一節切笛 壺箱  
○一木地大盃 壺箱  
○一玉簾御文臺 壺箱  
○一古矢 五本  
○一銅燈籠 式ッ

新式拾六番御長持

○一鶉籠 四箱  
○一訴状箱 式ッ  
○一御かけ盤 壺箱  
○一木砲 六挺

新式拾七番尾長持

○一焼物蓮葉実御硯 但御筆洗添 壺箱  
○一古瓦御硯 壺  
○一同 御硯 壺箱

樂翁様御遺物  
○一大理石鉄刀木御硯箱 壺箱  
○一加茂河御硯 壺箱  
○一養老石御硯 壺箱  
一御筆箱 壺箱  
○一竹蒔絵御筆箱 壺  
○一堆朱模様御書籍之類大小 五ッ

○一檜木包御書籍 壺  
○一文房具五品 壺箱  
○一石榴形御筆洗 壺箱  
○一青貝御硯箱 壺箱  
○一流金御墨臺 壺箱  
○一鉄亀形御水入 壺箱  
一具利御筆箱 壺箱  
○一黒塗御硯箱 壺箱  
○一唐硯 但蓋鉄刀木 壺箱

東京行

一末央宮古瓦御硯 壺箱  
○一菊二仙人模様御硯箱 壺箱  
○一名取川埋木化石御硯 壺箱  
●一鉄御硯 壺箱  
○一堆朱御硯箱 壺箱  
○一梅蒔絵御懷紙箱 壺箱  
○一猿猴蒔絵御硯箱 壺箱  
○一御点式 壺箱  
○一唐銅孔雀尾建 壺  
○一流金御粘入 壺

大晚院様御遺物

一唐銅釣御香炉同御水入 壺箱  
○一御文具 壺箱  
○一唐銅御筆建 但江川太郎左衛門様より御到来 壺箱  
○一奥産御短冊箱 壺箱  
○一春慶御短冊箱 壺箱  
○一黒塗御硯箱 壺箱  
○一屋玖鳴御硯 壺箱  
○一鳳凰七宝蒔絵御硯箱 壺箱  
○一唐銅御筆筒 壺箱  
○一黒塗青貝模様御硯箱 壺箱  
○一楽字御紋唐草御料紙箱 壺箱  
○一唐銅孔雀尾建 壺箱  
○一青貝模様御硯箱 壺箱  
○一紫檀御筆建 壺箱  
○一木地御文臺 壺箱

○一両開御硯箱 壺箱  
○一黒沈金模様御硯箱 壺  
○一白銀御筆建 壺箱  
○一黒塗御木硯 壺  
○一白かね御杖 壺箱  
○一あかさ御杖 壺箱  
一黒珎金御小箆筒 壺箱  
○一御時計道具人之御箱 壺箱  
○一みたれ箱 式箱  
○一御鏡 壺面  
○一御年賀之御杖 三箱  
○一阿蘭陀御文庫 壺箱  
○一御賀御小蓋 壺箱  
○一竹長箱 壺  
○一桜蒔絵御短冊懸 壺箱  
○一朱珠金御机 壺脚

新式拾九番御長持

一短筒拾挺入 壺箱  
一竹状箱 式ッ  
○一象王辟玉 壺箱  
○一御手拭掛ケ 壺脚  
○一黒塗葵桜はち御紋散御箆筒 壺ッ  
○一金丸玉鎗鞘 壺ッ  
○一梨子地扇散し御紋付御鞍 壺箱  
○一御藥通箱 壺箱  
○一れん 壺箱  
○一御塗笠式 三張  
○一半弓 壺本  
○一御杖 壺箱  
○一陣鐘 壺ッ  
○一太靴 壺ッ  
一碁石 壺組

○一州浜透シ扇懸 壺

調度  
138カ

茶  
31, 2

○一御紋付籩  
○一葵御紋付矢建  
○一御貸烏帽子  
○一御冠  
○一采配  
一御烏帽子  
一御ゑる  
  
(半丁白紙)  
○一大鏡  
○一竹れん  
一桂楼御道具  
一一大花臺  
○一硝子御屏風  
一御鉄砲臺  
一御具足櫃棹入  
一一大徳利  
一鳶口鎗  
一弓  
一御稽古鎗  
一同棒  
○一唐銅御水鉢  
一御書棚  
一御貸具足  
○一琵琶  
一一大箏筒  
一御刀箱  
一御鞍箱  
一竹れん  
○一額  
○一挟箱  
○一重箏筒  
○一御床机廻箏筒  
○一ルーウフーウ  
○一御衣桁

壹 壹  
四箱 四箱  
式箱 式箱  
壹箱 壹箱  
式ツ 式ツ  
壹箱 壹箱  
二ツ 二ツ  
壹箱 壹箱  
拾壹筋  
式膳  
壹ツ 壹ツ  
四本  
壹本  
壹本  
四ツ  
四ツ  
壹箱  
式箱  
壹箱  
壹箱  
壹 壹  
壹箱 壹箱

○一矢  
○一テントウ入籠長持  
○一白熊御枕鎗鞘  
一コンストー  
一御花箏筒  
○一大机  
一八角箏筒  
○一車臺玉菓箱  
○一唐銅釣付御手焙  
一御火鉢  
○一しつぽく臺  
一長板  
○一御書棚  
  
(終)  
  
壹箱 壹箱  
壹箱 壹箱  
壹 壹  
壹箱 壹箱  
式 式  
壹 壹  
壹箱 壹箱





箱・袋貼紙	旧ラベル	真田家所蔵楕円ラベル	備考
	吉第225号1番倉庫階下 吉2号長棹 明き箱是れ八本茶入を吉光御短刀箱に納む		
	茶器第117号3番倉庫階下1号長棹 蠟色葵紋付棗		
	茶器第90号3番倉庫階下1号長棹 水滴茶入 銘更科		
	茶器第113号3番倉庫階下■号長棹 茶入袋■■■		
			(墨書)弘化二巳二月吉日 鯉印御奥
御手許 俱利御香合 大録寺二在し重代の御物也	茶器第203号3番倉庫階下1号長棹■■■合同入 俱利香盒		茶4-1~13は合同箱入、合同箱底墨書「南部坂 鯉印」
			(箱底墨書) イノ六四口三
枯し木も名のミ ぐちせぬ梅元に むかし恋しき鳥の 跡かな	茶器3番倉庫■■■■鳥の跡香盒	有り(重ね貼りで見えず)	
	茶器第224号3番倉庫階下1号長棹合同入 梨■桐■絵■■■角香盒		
御筆筭 吉	茶器第218号3番倉庫階下1号長棹春慶塗大箱合同入 松皮製 香盒 銘明石浦 松代侯宛書翰添		
	茶器第251号3番倉庫階下3号長棹 幸貴公■■■…		
	茶器第191号3番倉庫階下2号長棹 御庭焼■■■…		
	茶器第250号3番倉庫階下3号長棹 吉向御手焼香盒■■■…		
	(5-1合同箱貼)茶器第123号3番倉庫階下3号棚 水戸斉昭公作 茶碗及茶杓 赤黒茶碗一対、赤茶碗一、茶杓一		茶5-1は漆塗合同箱入、合同箱箱書(水戸景山公御作 御茶碗 御茶酌 四箱)
	(重ね貼りで見えず)	茶器 No.20	
	茶器第194号3番倉庫階下2号長棹 御手焼茶碗■■■		全4点
幸貴公御手焼茶碗	茶器第19■号3番倉庫階下2号長棹 ■■■…茶碗類■■■…		全26点
			茶7-1~3は合同箱、個別の箱なし
(箱表)御手許(箱蓋裏)土井大炊頭様御手焼	茶器第189号3番倉庫階下2号長棹 黒茶碗 幸貴公ノ歌あり		
		茶器 No.32	全6点
	茶器第155号3番倉庫階下■■■ 文公作黒楽焼茶碗	有り(重ね貼りで見えず)	
	茶器第156号3番倉庫階下2号長棹 黒楽茶碗		
	■■■第329号3番倉庫階下6号長棹 楓葉二枚組敷形 雲州焼向付皿 五人前	有り(重ね貼りで見えず)	現用ラベルの分類は「調度」を消して茶器になっている。全5点
	茶器第168号3番倉庫階下4番長棹 茶呑茶碗六客		全7点
	茶器第151号3番倉庫階下2号長棹 俱利天目台	No.56	
南四	茶器第171号3番倉庫階下4号長棹 黒塗定紋付茶台	茶器 No.49	
	■■■第66号3番倉庫階下2号長棹 茶服紗		全10点
御紋附梨子食籠	調度第712号5■■■階上■■■ 梨地■■■ 小食籠	調度 No.154	

# 茶器箱書・貼紙データ

※ラベルが重ね貼りされて文字が見えない箇所については、■で表した。  
 ※判読不明文字は□で表した。

資料番号	現用ラベル記載資料名	現用ラベル記載収納場所	箱・袋書
茶特	文琳之茶入	3番倉庫階下 1号長棹	(表書)文琳御茶入(蓋裏書)文琳御茶入 蓋象牙 袋鳥の丸模様 服紗包 唐草 紫服紗包 挽家黒ぬり ため塗箱入嘉永六癸丑年 五月朔日 御殿御焼失翌二日土中より掘出 其節御蓋其外焼失
茶1-1	南京赤絵茶入	3番倉庫階下 2号長棹	南京赤絵(金泥書)
茶1-2	蠟色葵紋付棗	3番倉庫階下 2号長棹	(表書)葵御紋 御棗(蓋裏書)ゆへありてこの 庭のものとはなり けりおろそかに 用べからず 一誠翁誌
茶1-3	仁阿弥作 鶴首茶入 白茶錦袋付	3番倉庫階下 2号長棹	鶴くび 茶入 仁阿弥(花押)
茶1-4	春慶作 大海ノ茶入 袋茶地金襴牡丹 模様	3番倉庫階下 2号長棹	(表書)椿春慶(横書)春慶大海
茶2-1	水滴ノ茶入 銘更科	3番倉庫階下 2号長棹	(外箱)水滴御茶入 更科銘御箱書三玄翁 田安一位斉匡卿御直 筆(内箱)更科 三玄翁(花押)
茶2-2	水滴茶入用茶入袋 茶色緞子一 紺緞 子一 藍色錦一	3番倉庫階下 2号長棹	掘出シ 一水滴の袋斗入 一長紐茶入袋沓ツ入 一長紐茶入袋 沓ツ入
茶3-1	信楽焼 茶壺	3番倉庫階下 2号長棹	
茶3-2	黒班 茶壺	3番倉庫階下 2号長棹	茶つぼ
茶4-1	信之公所用 朱俱利香盒	3番倉庫階下 2号長棹	
茶4-2	鳥さし 堆朱香盒	3番倉庫階下 2号長棹	堆朱御香合 鳥さし(箱横書)ほてい(蓋裏書)七十四
茶4-3	金蒔絵 鶉籠香盒	3番倉庫階下 2号長棹	鶉籠香合
茶4-4	金蒔絵 瓜形香盒	3番倉庫階下 2号長棹	
茶4-5	南蛮写 南京赤絵香盒	3番倉庫階下 2号長棹	
茶4-6	楽翁好 楽字香盒	3番倉庫階下 2号長棹	楽字 香合
茶4-7	梅木地割 鳥の跡香盒	3番倉庫階下 2号長棹	鳥のあと 御香合
茶4-8	梨子地桐文蒔絵錫置口 角香盒	3番倉庫階下 2号長棹	桐紋梨地
茶4-9	伊万里染付 香盒	3番倉庫階下 長棹	
茶4-10	上州尾上焼 狸ノ香盒	3番倉庫階下 2号長棹	香盒 腹鼓
茶4-11	(現用ラベルなし)		明石 銘
茶4-12	月日貝香盒 銘片そぎ	3番倉庫階上 2号長棹	(外箱)月日貝 香合 銘片そぎ 御数寄屋方(外箱蓋裏)天明四年甲辰正月 廣田筑後献上 右香合 塗師 京都 宗哲 上箱 指 物師 京都 利斎(外箱底)天明四甲辰 七月御預
茶4-13-1	吉向御手伝 幸貴公御手焼 一ノ箱(後 略)	3番倉庫階下 2号長棹	
茶4-13-2	幸貴公御焼 二ノ箱(後略)	3番倉庫階下 2号長棹	
茶4-13-3	幸貴公御手焼 三ノ箱(後略)	3番倉庫階下 2号長棹	御手焼 御香合類
茶5-1-1	水戸斉昭作銘四季 赤茶碗 箱入(後 略)	3番倉庫階下 3号長棹2重箱 外黒塗	(内箱書)赤茶碗 銘 四季(内箱蓋裏書)斉昭作(花押)
茶5-1-2	銘夜の錦 赤黒茶碗箱入二(後略)	3番倉庫階下 3号長棹	赤黒茶碗 炭筆の煙にこもる 山もみじ ひるさへ 銘夜の錦なりけり 見る人はひるにくらぶの 山もみじ月には夜も錦なりけり
茶5-1-3	茶杓箱入一 銘權之茶杓	3番倉庫階下 3号長棹	茶箱之用 軒愚考 權茶しゃく 嘉永庚戌冬燈下試作 識 斉昭 (花押)
茶5-2	水戸斉昭公手造 黒茶碗 銘若草	3番倉庫階下 2号長棹	若草 (内箱)若草 (内箱蓋裏)(略)
茶6-1	幸貴公一ノ箱 御手焼茶碗 白釉三 鶯 色釉一	3番倉庫階下 2号長棹	
茶6-2	幸貴公二ノ箱 御手焼茶碗十 内一つ ハかんしつ 一つハ破損	3番倉庫階下 2号長棹	御手焼御茶碗類
茶7-1~3	吉向作花ノ丸御庭焼(後略)	3番倉庫階下 2号長棹	十五
茶8-1	松代焼 桔梗形茶碗	3番倉庫階下 2号長棹	水戸様御庭焼 黒御茶碗(箱蓋裏)嘉永三庚戌年 五月御到来
茶8-2	土井大炊守作 黒茶碗 幸貴公ノ歌あり	3番倉庫階下 2号長棹	黒 茶碗(箱蓋裏)以吹上 御庭土造焉(花押)
茶8-3	薩摩焼金紋付 茶碗 定紋三 竹二雀紋 三	3番倉庫階下 2号長棹	信濃守様前 金御紋付 御薄茶茶碗 御濃茶茶碗 御煎茶茶碗
茶8-4	文公作黒楽 茶碗	3番倉庫階下 2号長棹	御茶碗 (箱蓋裏)文公様御作 黒御茶碗
茶8-5	鉢開写 黒楽茶碗	3番倉庫階下 2号長棹	鉢開写 黒茶碗 楽吉左衛門◎
茶8-6	ひいどろ 茶碗	3番倉庫階下 2号長棹	雁金木スカシ蓋 合ト ひいどろ
茶8-7	出雲焼春秋草花 茶碗	3番倉庫階下 2号長棹	上 御茶碗 新出雲焼 春秋草花
茶8-8	楓葉二枚組敷形 雲州焼 向付皿 五	2番倉庫階上 14号長棹	雲州焼 向付(箱横)雲州焼 向付 五人前
茶8-9	茶吞茶碗 六	3番倉庫階下 2号長棹	□□(貼紙で見えず)拾 不足(箱横チョーク書)485
茶9-1	信之公所用 黒唐物俱利天目台	3番倉庫階下 2号長棹	唐物久理天目台
茶9-2	黒塗定紋付 天目台 一	3番倉庫階下 2号長棹	御紋付御茶臺
茶9-3	黒塗定紋付 茶托 一	3番倉庫階下 2号長棹	
茶10	茶服紗 十	3番倉庫階下 2号長棹	御茶服紗
茶11	合同箱中 梨子地定紋付内朱塗 小食 籠 箱入	3番倉庫階下 2号長棹	

箱・袋貼紙	旧ラベル	真田家所蔵楕円ラベル	備考
瀬戸 御水指 但シ 御蓋入		■No.252	
茶一番	茶器第45号3番倉庫階下5号長棹 幸貫公作 黒楽焼水指	茶器No.84	
(資料貼紙)茶二番			
		茶器No.74-1	全17点
	茶器第364号3番倉庫階下4号棚 黒塗二段重 炭箱 枝炭在中	(四角ラベル)調度No.750	
		茶器No.282-3	
織部敷瓦式 風爐敷板	茶器第20号3番倉庫階下3号棚 織部焼風爐敷板		
	茶器第318号3番倉庫階下3号棚 樺地黒塗長板		
	茶器第317号3番倉庫階下3号棚 黒塗長板		
	茶器第42号3番倉庫階下3号棚 遠州好四方釜 蓋唐銅漢鏡写		
	茶器第39号3番倉庫階下■■■■利休劔釜	茶器No.254	
	茶器第37号3番倉庫階下3号棚 鉄丸釜 銘時雨		
	茶器第33号3番倉庫階下3号棚 幸貫公作 茄子形鉄瓶銘萬代	茶器No.66(鉛筆書き)四上二	
	茶器第30号3番倉庫階下3号棚 瓢箪釜■■■■	茶器No.64(鉛筆書き)四上二	
	第65号3番倉庫階下3号長棹 柄杓1本 2本		
		No.7■	合同箱の中に専用箱
	茶器第395号3番倉庫階下1号長棹(破れで見えず)	重ね貼りで見えず	
	茶器第67号3番倉庫階下3号棚 羽箒 大鷲羽 小鶴羽		
	茶器第351号3番倉庫階下 鉄製■■■■自在鎖		
第十四号台次 ◎一八	(重ね貼りで見えず)		
	(重ね貼りで見えず)	茶器No.244	
真晴院様		(四角ラベル)器No.179	
			全3点
■■ 真花塗り 炉縁 印			
	茶器第367号ノ3 3番倉庫階下4号棚 黒塗爐縁	重ね貼りで見えず	
乾印御長持入 御居 間御常用	茶器第367号 3番倉庫階下4号棚 ■■■ 爐縁	茶器No.98/3	
	有り(見えず)		
	茶器第367号ノ10 3番倉庫階下4号棚 黒塗爐縁(4ツ中4)		
	■■■■3番倉庫階下4号棚		
備前焼 火禱	茶器第355号3番倉庫階下4号長棹 備前焼 灰焙烙		
	茶器第35■号■倉庫階下4号棚 底取灰土鍋		
		茶器No.312	
御茶うす 寿御側		茶器No.170	
	茶器第35号3番倉庫階下4号棚 茶臼 一		
	有り(見えず)	茶器No.246	
			全5点
	■■■第282号3番倉庫階下 ■■■■ 唐銅花瓶■■■	(四角ラベル)調度No.477	
	■■■第39■号3番倉庫階下 ■■■■ ■■■■	(四角ラベル)調度No.472ノ乙	
		茶器No.53	

資料番号	現用ラベル記載資料名	現用ラベル記載収納場所	箱・袋書
茶12-1	伊万里焼 染付山水 水指	3番倉庫階下 3号長棹	
茶12-2	幸貫公作 黒水指	3番倉庫階下 3号長棹	御自作 黒焼御水指
茶13-1			
茶13-2	建水 備前焼一. 曲物一. 黒楽一.	3番倉庫階下 3号長棹	(蓋裏刻印)鯉 (箱底)南部坂 鯉印
茶13-3			
茶14-1	(ラベルなし)		
茶14-2	風炉前土器十七 内三八半月形	第3番倉庫階下3棚中段	(箱書)御風爐前土器 (袋書)宮内様より被進候
茶14-3	黒塗二段重 炭箱 枝炭入	第3番倉庫階下3棚	
茶14-4-1	棕櫚竹細工 炭取 籠	第3番倉庫階下3号長棹	■籠細工 籠炭取
茶14-4-2	籐製 炭取籠	第3番倉庫階下4号長棹	
茶15-1	(現用ラベル破れ)の敷板		
茶15-2	水戸産 寒水石小板(風炉ノ敷板)	3番倉庫階下3号長棹	水府産寒水石 小板
茶16-1	樺地黒塗 長板	3番倉庫階下3号長棹	
茶16-2	(現用ラベルなし)		
茶16-3	黒塗 薄板	3番倉庫階下3号長棹	
茶17-1	遠州好 四方釜 蓋唐銅漢鏡写	3番倉庫階下4号長棹	遠州好 四方釜(蓋裏)覚 一遠州御好四方釜 一銀付瓢箪腥翁 ト文字有り 一釜ノ面松花堂ト有 一古静木作 七月 右細川越中守様御茶道 伊藤喜斎老書付候此 節ノ裏 紙置候後年紛失 無之元写書付置天明四辰
茶17-2	釜屋庄兵衛作 利休劔釜 蓋銅火色つ まみ梅 肩二劔形連続模様		利休劔釜 釜屋庄兵衛
茶17-3	鉄丸釜 銘時雨	3番倉庫階下4号長棹	御釜 銘時雨 (底)丸印
茶17-4	茄子形鉄釜 銘萬代	3番倉庫階下4号長棹	
茶17-5	古山城作 瓢箪形釜	3番倉庫階下4号長棹	瓢箪釜 古山城作 (箱横)瓢箪釜
茶17-6	鉦豆形 鉄 一組 釜附属	3番倉庫階下4号長棹	前土器
茶18-1	柄杓三	3番倉庫階下 長棹	上 御柄杓 御茶釜 竹村六之助 (箱横に割印あり)全3点
茶18-2	銅印蓋置	3番倉庫階下3号長棹	
茶18-3	軸懸繼竿	3番倉庫階下3号長棹	御懸物繪竿 御茶道方(蓋裏)二
茶18-4	(現用ラベルなし)		上々 鷲三ツ羽 左 (裏)タ マキ
茶19-1	幸貫公作 自在鍵 幸貫公ノ歌あり	3番倉庫階下3号長棹	
茶19-2	鉄製唐草象嵌 自在鍵	3番倉庫階下3号長棹	七寶 自在鎖(蓋裏)安永七戌仲冬吉辰
茶20-1	黒塗定紋梅鉢紋付唐草蒔絵 台子棚	3番倉庫階下4号長棹	
茶20-2	柱竹 桐白木台子棚	3番倉庫階下4号長棹	(横チヨーク書)244
茶21-1	幸教公夫人所用 喚鐘大小2	3番倉庫階下3号長棹	唐かねくわんし口口 御つりか口 口口口口(底)五
茶21-2	喚鐘 幸正公夫人所用	3番倉庫階下3号長棹	くわんしやう(横)「喚鐘」「くわん志やう(底)くわん志やう 十二
茶21-3	撞木	3番倉庫階下3号長棹	
茶21-4	銅鑪用 桴 先端黄皮包柄唐草彫	3番倉庫階下3号長棹	
茶22-1	幸貫公所用 黒塗炉縁	3番倉庫階下3棚7中ノ1	黒塗炉縁 御茶道御預り
茶22-2	幸貫公所用 樺木地 炉縁 黒塗嵌蓋付	3番倉庫階下3棚7中ノ2	困炉裡縁 (蓋裏)御数寄方 (横)三通口
茶22-3	幸貫公所用 黒塗 炉縁 桐嵌蓋付	3番倉庫階下3棚7中ノ3	乾印入 黒塗御爐縁
茶22-4	黒塗 炉縁 黒塗蓋付	3番倉庫階下3棚7中ノ4	
茶22-5	黒塗 炉縁	3番倉庫階下3棚7中ノ5	
茶22-6	黒塗 炉縁	3番倉庫階下3棚7中ノ6	
茶22-7	黒塗 炉縁	3番倉庫階下3棚7中ノ7	
茶23-1	備前焼 灰焙烙	3番倉庫階下3号長棹	備前焼 御灰砲碌
茶23-2	底取灰土鍋	3番倉庫階下3棚	底取灰土鍋 一組
茶23-3	風炉用灰匙 唐銅一 銅一 笈包一 竹柄一 外二小銅灰匙二	3番倉庫階下3号長棹	(横チヨーク書)312
茶24-1	挽手付 茶臼 大	3番倉庫階下3棚 3中ノ1	
茶24-2	茶臼 中 附属品付(箱入)	3番倉庫階下3棚 3中ノ2	
茶24-3	茶臼 小	3番倉庫階下3棚 3中ノ3	
茶24-4	茶臼附属品 一木製漏斗 一竹匙 一挽手 一竹管 一竹筒 一羽箒		御茶うす 上 附属品
茶25	棕櫚ノ葉編 円座 五枚 昭和41年調	3番倉庫階下5号長棹	御円座 五枚之内
茶26-1	(現用ラベルなし)		
茶26-2	黒塗定紋付茶辨当 半荷	3番倉庫階下6号長棹	御茶辨當
茶27	黒塗鈴虫籠 銀製虫籠用花生付	3番倉庫階下6号長棹	明治十九年 黒ぬり 鈴虫かこ ニツ之内 す御花生相添 邦印
茶28-1	唐銅大花瓶 耳象鼻一対	3番倉庫階下5号長棹	御花瓶 壹対
茶28-2	唐桑六角形 花台 唐銅(耳象鼻)大花瓶用	3番倉庫階下5号長棹	唐桑 御花臺 (横チヨーク書)472 百
茶28-3	唐銅 薄端花生 別に花台あり	3番倉庫階下5号長棹	御■■■■
茶28-4	唐銅薄端花生用 紫檀花台	3番倉庫階下5号長棹	紫檀 御花臺 南天印 (蓋裏)明治廿二年己丑十二月 久保久邇 献上



箱・袋貼紙	旧ラベル	真田家所蔵楕円ラベル	備考
(無銘花生付箋)未年 江戸廻り御居間出	茶器第25号3番倉庫階下3号棚 幸貫公作■■■		
有り(破損)			
(付箋)茶三番 獅子口御花活 茶壺 香			
御手許 山刀切 御 花筒 無造作庵御作	茶器第280号3番倉庫階下3号棚上 幸貫公作山刀切花筒 銘無造作庵		
(付箋)茶五番	茶器第267号■■■■		
(付箋)茶三番	有り(見えず)		
	有り(見えず)		
	茶器第277号3番倉庫階下■■■■ 幸貫公作 花筒 銘千代 のかざし		
	茶器第273号3番倉庫階下■■■ 常修院宮御作 筒二重切花 生		
「御手許 水戸様御筆 御花活」茶三番	茶器第274号3番倉庫階下2号棚 花生 水戸烈公梅ノ歌刻		
	茶器第31号3番倉庫階下3号棚 黒柿製花生掛板		
		有り(見えず)	
	茶器第21号■番倉庫階上南梁上 木聯		
	茶器第20号3番倉庫階上南梁上 竹之聯		全5点
	■■■第209号4番倉庫階上6号■■■ 竹製州浜紋透 扇面懸		
三九			
		No.91(分類なし)	茶碗箱書「雲鶴青磁御茶碗」
蓮花王御茶壺	第3号1番倉庫階下南棚上 ■■■■蓮花王茶壺	茶器No.142	
	■■■4号1番倉庫階下■■■棚上 ■■■口覆網袋	茶器No.142之乙	
	第特5号1番倉庫階下南棚上 卯の花茶壺■■■	茶器No.177之甲	
		茶器No.177之乙	
番外枝炭	茶器第363号3番倉庫階下4号棚 枝炭	(破れ)No.171	

資料番号	現用ラベル記載資料名	現用ラベル記載収納場所	箱・袋書
茶28-5	唐銅 花瓶一 耳象鼻 鶴首三 底無し	3番倉庫階下5号長棹	
茶28-6			全2点
茶29-1	幸貴公作 竹ノ花生 銘 更科龍洞無銘	3番倉庫階下5号長棹	感応院様御作 御花生 御銘 さら科 龍洞 外二太竹一 三
茶29-2	幸貴公作 竹ノ花生 銘 むしろ田 温泉の竹 大井川船棹竹 糺の竹 尺八花生 半川庵(ママ)	3番倉庫階下5号長棹	御手許 御花筒 無造庵御作 銘むしろ田 深草の竹御花 京都嵐山下大井川渡船棹 御花筒 新■
茶29-3	宗室作 二重箱入 二重切 花生 銘天地	3番倉庫階下5号長棹	(外箱表)花生 壺(外箱横)二重切御花活 銘天地 (内箱表)鯉印(内箱裏)自作二重花入 天地ト号 認得齋
茶29-4-1	幸貴公作 竹之花生 銘寿星庵 手桶形花生 銘一誠齋	3番倉庫階下5号長棹	感応院様御作 御花生 御銘塵 外 ■■ 一
茶29-4-2			
茶29-5	竹製 獅子口花生 幸貴公作	3番倉庫階下5号長棹	十四番
茶29-6	幸貴公作 山刀切花筒 銘 無造作庵	3番倉庫階下5号長棹	
茶29-7	幸貴公作 竹花生 いたずらにノ歌あり	3番倉庫階下5号長棹	感応院様御作御銘 御花生
茶29-8	幸貴公作 竹之花生 銘 風しつか ふた霜	3番倉庫階下5号長棹	感応院様御作 御花生 御銘 風しつか ふた霜 一
茶29-9	幸貴公作 二段切花生 銘 千代のかげ	3番倉庫階下5号長棹	御銘御筆 二段切御花筒(蓋裏)文政六年癸未十一月廿一日 御家督初而 御拝領 御鷹雁掛竹を以 御作 臣 山本重休 行年八十 謹誌
茶29-10	幸貴公作 花筒 銘 千代のかざし	3番倉庫階下5号長棹	御銘御筆 御華筒 (蓋裏)天保五年甲午三月朔日 御昇進後初而 御拝領 御鷹雁懸竹を以 御作 臣 山本重休 行年八十 謹書
茶29-11	常修院宮御作 筒二重切花生	3番倉庫階下5号長棹	竹筒二重切 常修院宮御作
茶29-12	水戸齊昭竹の花生 咲きぬへき時も待ちえて冬ながら 歌色みする梅の一枝	3番倉庫階下5号長棹	
茶29-13①	黒柿製 花生掛板 二中ノ一	3番倉庫階下5号長棹	
茶29-13②	櫻製 花生掛板 二中ノ二	3番倉庫階下5号長棹	
茶30-1	木聯	3番倉庫階下3棚	
茶30-2	竹之聯	3番倉庫階下3棚	
茶31-1	瓢形掛盤	3番倉庫階下3号長棹	
茶31-2	竹製州浜紋透 扇面懸	3番倉庫階下3棚	
茶31-3	竹製 団扇掛	3番倉庫階下3棚	
茶32	定紋入銀製 菓子皿箱入	3番倉庫階下2号長棹	鎌倉古瓦 (横)古瓦
茶33	心葉 箱入	3番倉庫階下2号長棹	心葉
茶34	梨子地鶴亀松竹蒔絵 定紋付茶筍筒 梨子地梅に竹雀蒔絵天目台一 銀天目台及茶碗(唐草定紋)	3番倉庫階下6号長棹	梨子地 御茶筍筒 壺
茶35	信之公所用 黄天目茶碗 銀縁取	3番倉庫階下2号長棹	
茶36	後楽園焼 黒茶碗一	3番倉庫階下2号長棹	
茶37	一茶碗一 箱入 永楽作三島雲霞青磁 一掛軸一幅二重箱入 鷹司政通公書 一卷物一卷 水戸烈公(齊昭公)書簡 二重箱裏に幸貴公の趣旨書きあり	1番倉庫階上西棚下段	(外箱)御掛物 鷹司相国御筆 一幅 御茶碗 楽焼 雲霞青磁永楽作 一箱 右御二品御伝来之旨趣御箱裏書 幸貴公御筆 (内箱)水戸黄門齋昭卿両度御消息 一卷 鷹司相国公御消息 一幅 茶碗永楽作 一箱(蓋裏書き略)
茶38-1	伝秀吉公より拝領品 蓮花王茶壺	1番倉庫階上西棚下段	
茶38-2	伝秀吉公より拝領 蓮花王の茶壺の口覆及綱袋 羽箒添	1番倉庫階上西棚下段	網 一 乳緒 二 真壺口覆 一 口緒 一 取緒 一 (蓋裏)元文三年 午二月廿三日 御婚礼之節出来 乳緒取緒者 宝曆十庚辰年五月十二日 御婚礼之節出来 大沢氏
茶39-1	卯の花茶壺 薄き班文あり 茶褐釉	1番倉庫階上西棚下段	
茶39-2	卯の花茶壺 口覆及綱袋 箱入	1番倉庫階上西棚下段	茶壺覆一 同網一 同口緒一 乳緒一房付
茶40	(現用ラベルなし)		進上 光瀧白炭 卯(箱横)枝炭

# 真田宝物館収蔵品目録

真田家旧蔵資料目録 — 茶器 —

発行 平成二十六年三月

長野市教育委員会文化財課

松代文化施設等管理事務所

〒三八一—一二三三

長野市松代町松代四—一（真田宝物館内）

印刷 有限会社 アツツロー

※無断転載・複製を禁じます。

